

ガラクタとヘガスス

作 石原美か子

(上演時間 約一一〇分)

【作品概要】

実家の遺品整理のため、久々に帰省した兄と弟。

しかし片付けはなかなか進まない。兄は幼い頃から「物」と会話ができるため、ガラクタたちを処分できないのだ。そんな兄の力を疑っていた弟も、ひょんなことから「物」と話せるようになってしまう。

戸惑う二人に、招き猫・鳩時計・星座早見盤が語りかける。

「・・・処分される前に一つくらい、望みを聞いてもらってもいいですかね？」

形見たちの最期の望みを叶えるため、いい歳した兄弟の悪戦苦闘が始まる。

——処分しなければいけないものは、いつだって手におえないものばかり！

【登場人物】

習志野 泰之 ならしの やすゆき (三五歳)

長男。会社員。

習志野 明 あきら (二九歳)

次男。自称ミュージシャン。

習志野 りつ子 りつこ (三三歳)

泰之と明の従姉妹。地元の中小企業社員。

習志野 正人 まさと (二三歳)

りつ子の弟。地元大学の三年生。

習志野 典子 のりこ (三〇歳)

泰之の妻。

立原 奈央 たらはら なお (二十一歳)

明の女友達。都内の大学生。

岬 めぐみ みさき (二十七歳)

明の女友達。フリーター。

木島 永太郎 きじま えいたろう (三五歳)

泰之・明・りつ子の幼馴染み。工務店社長。

招き猫

形見の品 (できれば男優)

鳩時計

形見の品 (できれば女優)

星座早見盤

形見の品 (男優)

へその緒1

泰之のへその緒 (女優)

へその緒2

明のへその緒 (男優)

コンテナ

永太郎の仕事道具 (男優)

【場所】

かつて泰之・明兄弟が両親と住んでいた習志野家。
都内から急行で二時間の地方の町、その駅から車で約二十分ほど走った住宅街に建つ、
築四十年の平屋。

【第一場】

暗転中、鳩時計の音。
舞台、明るくなる。

八畳ほどの居間(和室)。
習志野泰之・明兄弟が、かつて両親と住んでいた築四十年の家。
居間の出入口は下手にあり、上手は襖が閉まっている。(隣にも部屋あり)
舞台奥に押し入れ、舞台前面は板張りの縁側。
ちやぶ台には、古ぼけた招き猫と、菓子が積まれた菓子皿が置かれている。
周りにダンボール箱が二、三個、散乱している。

晩秋。 午後の遅い時間。

習志野泰之と明、ちやぶ台を挟んで対峙している。
泰之は平凡な服装だが、明はミュージシャン風の派手なファッション。
二人、睨み合ったまま動かない。 足元にはゴミ袋。
部屋の隅で、習志野正人が二人を見守っている。

泰之 ……俺が勝ったら、お前が東京に持って帰る。 お前が勝ったら、ここで捨てる。
いいな？

明 セーの！

二人、真剣な顔で「じゃんけんポイポイ」を始める。

泰之・明 じゃんけんポイポイ、どっち引くの！ こっち引くの！

引き分け。

明 チッ。

泰之 あいこで……

泰之・明 ポイポイ、どっち引くの！ こっち引くの！

また引き分け。

明 ちきしよつ。

泰之 あいこで……

泰之・明 ポイポイ、どっち引くの！ こっち引くの！

明の勝ち。

明 よし！

泰之 ああつ！

明 兄ちゃん、絶対チョコキを残すんだよ、変わってねえー(笑う)

正人 そうなんだ。

明 成長してねえー。

泰之 久しぶりにやったから、こんなの…

明 自分からやろうって言ったくせに。

正人 はい、やっちゃん。

正人、泰之にゴミ袋を渡す。

洪々と受け取った泰之、袋の口を広げて持ち、

泰之 ほら…

明 いいの？

泰之 どうせ、いつかは処分しなきゃならないんだ…

明、ゆつくりと招き猫を抱え上げる。

泰之 見るな。見ると、いろいろ思い出すから。「これはあそこに置いてあった」とか、「いつからこの家にあるんだろう」とか、絶対に考えるな、そのまま目を閉じて、一気にここに投げ込むんだ。

明 …兄ちゃんが目を閉じて、どうするんだよ。

泰之 いいから、さあ！

明 そんな辛いんなら、持って帰れって。

泰之 だから無理なんだ、典子が怒る。古い物とか、誰かが使った物は駄目なんだ。

正人 誰かが、つて、自分のダンナでしょ。

泰之 古い物って家の匂いがついているだろ？ 家族の匂いつて言うか…典子はうちの親に会ったこともないから、この家も、物も、他人の家みたいじゃないかな。

正人 ふうーん。

明 さつきも言ったけど、俺、今夜、ライブだからさ、とっとと帰んなきゃいけないんだよ。

泰之 俺だつて帰る。明日、仕事だし。

正人 かつこいいなあ、ライブかあ。

明 お前だつて、練習すりやすくてできるよ。

正人 うん。

泰之 今日しかないもん…仕方ない、ほら。

明 じゃ……さよーなら。

捨てようとした瞬間、習志野りつ子が入って来る。

りつ子 それ、玄関に置いてあったやつだよね？
 泰之 なんて、いま、それを言う！
 りつ子 えっ、あ、ごめんごめん……
 正人 姉ちゃん、あつたの？へその緒。
 りつ子 ないんだよねー。
 正人 こっちもないよ。
 りつ子 本当？
 正人 どうするんだよ、やっちゃんと明ちゃんの宝物……
 りつ子 いや、絶対、こっちだと思うんだよなあ。
 明 じゃあ、探してて。(泰之に) ちゃんと広げろよ。
 泰之 ああ……

入れようとした瞬間、

りつ子 でも気づいたら消えてたよね、玄関から。
 泰之 りつ子！
 りつ子 ごめーん。でも、私も思い出があるからさ。この子を見てると、ここの玄関の匂いとか、廊下の向こうから走って出て来るヤスと明の足音とか、そういうのがパツと蘇るんだよね。
 泰之 ああ……
 明 ま、それはわかるけど……
 りつ子 で、台所から弓子おばさんが顔だけ出して、「りつちゃん、プリン作ってあるよー」なんて。
 明 ああ……プリン。あの殺人的に甘いやつな。
 りつ子 そう、そう。
 正人 毎日こっちに来てたんだっけ？
 りつ子 ほぼ毎日だったかな。あんた生まれて、お母さんが仕事やめるまで。
 泰之 ……お通夜だ。
 明・りつ子・正人 え？
 泰之 高志おじさんに言われたんだ、
 りつ子 うちのお父さん？
 泰之 「通夜なのに招き猫が玄関にいたらおかしいから、どこかにしまえ」、って。それで、物置だったかな、しまったんだよ、俺が。(撫でる)
 明 そうだっけ……？
 泰之 お前は知らないよ。あの時は、お前も父さんも……使いものにならなかった。
 明 ……
 泰之 それにこれ、結婚祝いでもらったやつらしいから、父さんに見せないほうがいいって思ったんじゃないかな、おじさん。
 りつ子 そっか……じゃあ、十年？

泰之　　そういうことになるな。
 りつ子　あれ、でも私、物置で見つけたんだっけ、これ？
 泰之　　そうだと思うけど……

泰之、招き猫を見つめて、ふと驚いた顔になる。
 あらたまつたように正座をして、

泰之　　……ああ、そうでした、物置じゃなくて、あっちの押入れでしたっけ……はい、泰之です、すみませんでした、ずっと忘れてて……

明・りつ子・正人　　……
 泰之　　ええ、父も亡くなりました、七年前。気づいてましたか……そうです、癌です。だましましたし過ごしてたんですけど……母が急に亡くなって、それがショックだったんでしよう……本当にすみません、最後に一度くらい、父に会ってもらいたかったのに……

りつ子　（笑う）すごい、ヤス、まだ会話できるの？ モノと。
 泰之　　いや最近なかったけど……いま急に話しかけて来た。

正人　　へえー。

りつ子　　そっかー。
 明　　そっかー、じゃねーよ！

りつ子　　何、怒ってるの？

明　　もういい大人なんだから、その、ファンタジーなやつ、もうやめようぜ。

泰之　　ファンタジー？

明　　気持ちわりーんだよ。

泰之　　（招き猫に）ああはい、そうです、明です……いえ、非行に走ってるわけではないです、もう二十九なんです。そうです、もうそんな歳で……仕事？ こつちが聞きたいくらいですね。

明　　おい。

りつ子　　あんたが一番、「すごいすごい」って言ってたじゃない。

明　　ガキの頃だろ？ でももうさすがに付き合つてられねーし。俺、スピリチュアルとか、オカルトとか、マジで信じてねーから。

正人　　でも明ちゃんも、俺によく「ギターと会話しろ」って。

明　　意味が違うだろ！ お前らが話合わせるから、凶に乗るんだよ、この人。

正人　　いつからだっけ？

明　　おい。

泰之　　小学校に入った頃かな。

りつ子　　何かきつかけあったよね……転んだんだっけ？

泰之　　いや、そこ（縁側）から落っこちたんだ。

正人　　庭に？

りつ子　　子供にしたら、けっこう高いよね。

泰之　　うん、痛いのが驚いたので頭が真っ白になって、そのへんではばらく動けなくなった

んだ。そうしたら、そこに掛けてた鳩時計から鳩が飛び出して、話しかけて来たんだ……「ダイジョウブ？ ダイジョウブ？ ダイジョウブ？」って……

明 ……ダイジョウブ？ 頭。

泰之 頭は打たなかった。

明 いやたぶん打ってる。

正人 そういや、そこに掛かったよね、鳩時計。

りつ子 あっ。

りつ子、隣の部屋へ。

正人 どうしたの？

りつ子、重たそうに、鳩時計を持って出て来る。

りつ子 これでしょ、これ……重っ。

明 あっ。

泰之 そうそう、それ。

招き猫の横に置く。

明 まだ動いてんだ。

正人 こんな古いやつだったっけ。

泰之 古いよ、新築祝いでもらったらしいから。

正人 へえ……あっ、ピザ、取りに行く時間。

りつ子 本当だ、あんた取って来て。

正人 わかった。

泰之 悪いな、正人。

正人 すぐそこだから。車、借りる。

正人、居間から出て行く。

明、鳩時計の扉の中を覗いている。

明 うわ、まだ鳩いるわ……

りつ子 当たり前でしょ。これもどうするの？

泰之 そうだなあ。

明 どうするって、もう処分するしかねーだろ。

泰之 (鳩時計に) ああ！ 久しぶりです……はい、そっちは明です、いえ、非行に走ってるわけではないです。

りつ子 また？

泰之 うん。

明 くっだらねえ、この鳩が喋ってるって、言うのかよ……(扉を開けようとする)

泰之 (明をどついて) 何するんだ！ ハレンチな！

明 ハレンチ！？

泰之 (鳩時計に) え？ あっそうなんですか……(りつ子に) あっちに置いといた星座早見盤、知らないか？

りつ子 は？ 何？

泰之 星座早見盤。りつ子が持って行ったって(鳩時計が)言ってるんだけど。

明 は？

りつ子 何てやつ？

泰之 星座、早見、盤。

明、隣の部屋に行き、戻って来る。

明 ほんとだ、ねーな……

りつ子 どういうの？

泰之 このくらいの大きさで、丸くて、星が書いてあるやつ。こうやって(天を仰いで)空を見ると、星座がわかる……

りつ子 ああ……(天を仰いで) こういうやつね……丸くて、このくらいの大きさで……

ふと菓子皿に視線を留め、菓子を放り出すと、皿を持って天を仰ぐ。

りつ子 ちょうど、こんな感じになるやつでしょ？

泰之・明 ……あつー！！

泰之 それ！

明 それだよ、それ！

りつ子 えっ、これ？

泰之 こんなところに……

明 なんで、お菓子載せてるんだよ！

りつ子 ごめーん、ちよつとお洒落なお皿かと思つて。

明 全然、違うし。

泰之 良かった、見つかつて……

泰之、愛しそうに回転盤をグルグル回すが、ふと手を止めて、

泰之 あ、すみません……(丁寧に戻す)

りつ子 どうしたの？

泰之 今日のとこに合わせてくれて……(星座早見盤に) 久しぶりです、なかなか来られなくてすみません……はい、そうです、明です。

明 非行には走ってません！

りつ子 自己申告。

泰之
りつ子
（星座早見盤に）……そうですか、それを言われると俺も辛いんですけど……
どうしたの？

泰之
りつ子
第二の人生を、お皿として過ごす決心を固めたところだったそうだ。
うん、それも悪くないと思うけどね。

明、軽蔑した目で泰之を見つめる。

泰之
なんだ？

明
もういいや……その緒もこのへんに落ちてるんじゃないの？

りつ子
そうだった！ どこだったかなあ、大事だから、ちゃんとしてまっておかなくちゃって
思っ……

明
さすがに、それだけは持って帰るからさ。

りつ子
うーん……ヤス、話しかけてよ、「どこだーい」って。

泰之
どこだーい？

三人
………

明
やべ、耳を澄ませちまった……

りつ子
どう？

泰之
……あ。（廊下のほうを見る）

りつ子
ん？

立原奈央と岬めぐみ、お盆にお茶を載せて競うように入ってくる。

めぐみ
ちやつほー！ 明、調子どう？ 片付け、進んでは？

奈央
お茶、入りました、皆さん、休憩してください。

りつ子
めぐみちゃん、奈央ちゃん、ありがとう。

めぐみ
明、座りなよう。

奈央
（ボソツと）なに、自分の家みたいに。

めぐみ
お兄さんも休んでください。

奈央
（ボソツと）あなたのお兄さんじゃないでしょう。

めぐみ
……なるかもしれないじゃん？

奈央
……ありえないんですけど？

明
じゃあ、ちよつと休もうぜ！

明、お盆を受け取る。泰之、放り出された菓子を慌てて拾い集め、

泰之
そこ（ちゃぶ台）いっぱいだから、こっち（縁側）でもいいかな。

明
ああ。

りつ子
ごめんね、お客さんにお茶淹れさせちゃって。

奈央
とんでもないです、勝手に明くんについて来てしまっ……すみません。

めぐみ
一回見ておきたかったんですよー、明の育った家。

りつ子 お昼もうっかりしてて本当にごめんね、すぐピザ来ると言うから。
 めぐみ やったあー、ピザ大好き。

奈央 ご馳走さまです。

泰之 (小声で) あの子たちは何なんだ？
 だから友達だつて。

明 ……

奈央 さつきから気になってたんですけど、この招き猫、可愛いですねえ。(撫でる)
 りつ子 埃、すごいから。

めぐみ ほんとだあー、可愛いー。(撫でる)

泰之 ……喜んでますよ、若い女の子に撫でられて。

奈央 本当ですか？ じゃあ、もつと撫でちゃうぞ、えい、えい！

めぐみ あたしも！ えい、えい！

明 もういいから。

泰之 (お菓子を) いただきます。
 奈央 どうぞ。

めぐみ グイツと、グイツといっちゃってください。

りつ子 ごめんねー、こんな汚い家で。

めぐみ そんなことないですよー、明の部屋のほうがもつと汚いし。

りつ子 へえー。

奈央 壁が真っ黒に塗ってあって、赤いペンキで大きく「地獄一丁目」って書いてあるんです。

りつ子 ふーん…

泰之 お前、敷金返つて来ないぞ。

明 うるせえ、いいんだよ。

泰之 よくない、保証人は俺なんだ。

明 そういう世の中のルールに縛られてたら何もできねーよ、ロックは地獄を目指すんだよ！ な！

めぐみ ……なんであんたが明の部屋のこと知ってるわけ？

奈央 ……知ってるのは部屋だけじゃないかもしれないですよ？

泰之 (遮るように) 俺も明もこの家を出てもうだいぶ経つんですけど、その間、彼女がここにひとりで住んでくれていたんです。でも転職して引っ越すことになって…この家も、誰かに貸すか、売ってしまうか、悩んでいるところです。

奈央・めぐみ そうなんですかあ。

りつ子 そういや永太郎、遅いな…リフォームの見積り。

泰之 昼過ぎって、言つてなかったか？

泰之の携帯電話が鳴る。

りつ子 永太郎？

泰之 いや…(出るのを躊躇する)

明

出ないの？

泰之

いや、出るよ……(出て) もしもし、ああ、まだ家。いや要らない、食ってから帰る。終電になると思う。……わかってるよ、そんなこと……お前、どこにいるの？……そういう言い方ないだろう、何、イライラしてるんだ！俺はイライラしてない……してないって言ってるだろう！

全員

……

泰之、コソコソと話しながら廊下へ出て行く。

りつ子

……奈央ちゃんって、明のファンなんだって？

奈央

はい、大大大ファンです！

りつ子

へえー。

めぐみ

あたしはファンじゃなくて、マネージャーなんですー。明と前のバンドで一緒だったんですけど、まあ音楽性の違い？みたいなので解散しちゃったんで、今はアーティストとしての明をいろいろフォローしてるって言うかー。

りつ子

へえー、明、どんな歌、歌ってるの？

めぐみ

えっ、聞いたことないっすか？

りつ子

ないな。

奈央

もったいなーい。

めぐみ

じゃ新曲も聞いてないっすか？

りつ子

新曲？

明

聞いて。

りつ子

それはCDになってるってこと？

明

……CDになんかしねーよ、俺にとってはライブが全てだから。音楽はナマモノなんだ、ゼロイチで記録しておくなんて、くだらねーんだよ！

奈央・めぐみ

かつこい……

遠くで雷の音。

奈央・めぐみ

きやつ。

りつ子

うわ、雷？こんな季節に……洗濯物、一応、取り込んでおこうかな。

奈央

手伝います。

りつ子

いや、さすがにそれはいいから、ゆっくりしてて。

奈央・めぐみ

はい。

りつ子、湯呑を下げながら出て行く。

めぐみ

なんで曲、聞かせてないの？

明

ああ？

奈央

もしかして、お兄さんにも？

明 いや、だって、あいつらにロックがわかるわけねーし。

めぐみ そんなことないよ。

奈央 わかる、絶対。今までで一番かつこいいもん。

明 そうか？

めぐみ 明、ひとつ上のレベルに上がったなって思う、マジで。

明 そうか？

めぐみと奈央、嬉しそうに口ずさむ。

めぐみ ♪ 翼の折れた黒いエンジェルが…

明 やめろよ。

奈央 ♪ 地獄の首都高、逆走するぜ…

明 (歌う気になつて) 仕方ねーなあ…

明、ダンボールに入ったバドミントンのラケットを見つけて手にすると、
歌らしきものを叫び出す。

明 ♪ 翼の折れた黒いエンジェルが、地獄の首都高、逆走するぜ！ 逆走！

奈央・めぐみ (レスポンス) 逆走！

明 ♪ 逆走！

奈央・めぐみ 逆走！

明 ♪ 逆走、そして渋滞！

奈央・めぐみ 渋滞！

明 ♪ 逆走で渋滞！ 迷惑！ 地獄渋滞、百キロ！

奈央・めぐみ 小仏トンネル！

明 ♪ 地獄渋滞、百万キロワット！

奈央・めぐみ 綾瀬バス停付近！

明 ♪ 灼熱のテールランプ、天国を燃やせ！ 俺の絶望、ただいま地獄一丁目！

奈央・めぐみ ギター！

明、縁側まで出て、激しくギターを演奏する振り。

奈央とめぐみ、庭に飛び下り、ステージ下のファンのように声援を送る。

雷鳴。

三人 うわあつ。

雨が降り始める。

奈央 きゃーっ。

めぐみ

冷たーいつ。

明

降って来やがった・・・

りつ子、慌てた様子で顔だけ出して、

りつ子

ごめーん、やっぱり手伝って！ 玄関の前にもダンボール出してた！

めぐみ

やります！

奈央

私も！

りつ子

明、そこ(縁側)、閉めて！

明

ああ・・・

りつ子、奈央、めぐみ、慌ただしく出て行く。

明、縁側へ出て、空を見上げる。

明

すっげーな・・・何でこんな時期に・・・

激しい稲光と雷鳴。

明

うわあっ！

明、縁側でよろける。

一瞬、停電。暗闇が覆う。

すぐに明かりがつくと、庭に落ちた明、尻を押さえて呻いている。

明

(声にならない呻き) ケツが・・・横に割れた・・・

ちゃぶ台に、左手を上げた男(招き猫)と女(鳩時計)が正座しており、

もうひとりの男(星座早見盤)が仰向けになって横たわっている。

招き猫

ダイジョウブ？

明

いてー・・・

鳩時計

ダイジョウブ？

明

・・・

星座早見盤

ダイジョウブ？

明、振り返る。

明

うわあああああ！！！！

鳩時計

そこは濡れますから。

明

・・・誰！？

星座早見盤

風邪ひきますよ。

招き猫

こっち、入りなさい。

明

……

招き猫

早く、おいで。

明

……どちら様？

招き猫

また、ぜんそく起こしますよ。

明

いや、ぜんそくはもう治って……えっ？

招き猫

あ、そうでした。

鳩時計

もう二十九歳ですしね。

星座早見盤

非行にも走ってないしね。

明

……

招き猫

ほら、早く入りなさい、明。

鳩時計

明。

星座早見盤

明。

泰之、入って来る。

泰之

すごい音だったな……どうした？ 何やってるんだ？

明

いや、あの、その人たち……

泰之

その人？ (見回して) 誰？ 誰かいるのか？

明

えっ……

招き猫

雷に驚いて、縁側から落ちました。

泰之

そうですか。

明

見えてるじゃんか！

泰之

ん？

明

(小声で) 誰？ 何で、そこに座ってるの？

泰之

……見えてるのか？

明

は？

泰之

いいから、上がれ。

泰之、手を貸して、引っぱり上げる。

招き猫

わたしも「入りなさい」って、言ったんです。

泰之

タオル、いるか？

明

いや、いい。

招き猫

でも呼んでも来てくれませんでした……(自嘲気味に) 招き猫、失格ですよ……

明

！？

招き猫

こんな左手、もはや何の役にも立ちません……(下ろす)

泰之

そんなこと……

鳩時計

慰めはやめてください。

星座早見盤 余計、辛くなるだけです。
 招き猫 真一と弓子が去った今、所詮、私たちはただのガラクタです。

二個、ゴミ袋を見る。

泰之 ……

明 (小声で) 兄ちゃん、何なんだよ、この人…

鳩時計 (唐突に) パッポーウ!

明 うわっ!?

泰之 三時半ですか。

鳩時計 午後三時三十分、四秒、五秒、六秒…

泰之 (明に) 鳩時計。

明 ……

泰之 招き猫と、星座早見盤…これはわかるか。

明 わかんねーよ! ……はあ!?

泰之 本当は、両親の形見とも言える皆さん方をうちへ連れて行きたいんです。しかし、アルバムだけでも何十冊とありましたし、まだ整理されていない写真もこのくらいの箱に何箱も…ビデオテープもかなりの本数があったので、それだけで俺の部屋もいっぱいになってしまっているんです、狭いマンションなので。

星座早見盤 真一も弓子もカメラが好きでした。

泰之 だから妻に「もうこれ以上、持って来るな」と、釘を刺されているんです。本当に申し訳ないです。

鳩時計 典子さんでしたっけ?

泰之 はい。

鳩時計 一度だけ、ここに来ましたよね。

泰之 ええ。

星座早見盤 ああ私、見えなかったんですよ、天井向いてたから。

招き猫 私も押し入れで声だけ……どんな人です?

鳩時計 美人だけど、キツそうな人。

招き猫 泰之はキツいくらいの女性が好きだから。

鳩時計 そうそう、キツければキツイほどね。

星座早見盤 ほら、高校の時の……ヨコちゃんもキツかったですねえ。

泰之 ……うわ。

招き猫 ああ、大人っぽかった子ですよ。バドミントン部のキャプテン。

鳩時計 私、知らない。

招き猫 玄関までしか来たことないから。

鳩時計 そうなんだ。

星座早見盤 私、泰之にこっそり持ち出されてね、裏山の天辺に公園あるの知ってます?

泰之 ……ああ!

招き猫 知らない知らない。

鳩時計

外、出たことないもん。

星座早見盤

そうですね。ま、あるんですよ、夜になるといい感じに真っ暗の公園が。

泰之

その話は、ちよっと……

招き猫

つまり、「星を見よう」という口実で？

鳩時計

それ、真一が弓子を誘ったのと同じ手じゃないの。

星座早見盤

そうそう。でも弓子と違って、ヨーコちゃんは一筋縄ではいかない子でした。いや、

あの子はキツかったよねえ？

泰之

……

招き猫

あの日かな、こそこそ帰って来たなと思ったら、玄関ですすり泣いてた日。

鳩時計

ここまで聞こえたわ。次の日なんて、そこ(庭)のアリの巣に水流し込んでたし。

招き猫・星座早見盤 えー……

鳩時計

泰之は辛いことがあると、すぐアリの巣に水流すのよ。

明

そうそう、流してた……うわ、懐かしいなあ。

鳩時計

明が寄って来て、無邪気に「兄ちゃん何してるの？」って……すると泰之が、

明

アリの巣を掃除してあげてるんだよって……信じてたし、俺！(笑う)

泰之

もう、いいから！

正人・奈央・めぐみ、ピザの箱を持って顔を出す。

めぐみ

ちやつほー。正人くん、帰って来たよ。

正人

たごいま。

泰之・明

おう。

正人

いまから見積り持つて来るって、永太郎さん。

泰之

あ、そう。

めぐみ

正人くん、明に憧れてバンド始めたんだって？

明

ああ。

正人

でも俺、歌もギターも全然駄目だから……

明

正人。

正人

ん？

明

こー、どう思う？

正人

どうって……全然、片付いてないね。

泰之

まあな。

明

めぐみ、奈央。

めぐみ

ん？

奈央

なに？

明

こいつ(招き猫)、どんな感じ？

めぐみ

なんで？ 磨いたの？

奈央

じゃあ、また撫でちゃおっかな！(撫でる)

めぐみ

あたしも！ えい、えい！(撫でる)

二人に撫で回されて、招き猫、かなり嬉しそう。

明 駄目っ！

めぐみ・奈央 なんでも？

明 いいから、駄目！！

泰之 ……壊れやすいんで。

めぐみ・奈央 ああ…

明 ……

奈央 ねえ、何時頃、ここ出る？

明 ああ…どうしようか。

めぐみ 出番遅いから、六時に出ても余裕じゃない？

明 そうだな。

りつ子(声) 正人、ピザはー？

正人 あ、いま行く。

奈央 手伝います。

泰之 先に食べてて。

正人 え、いいの？

めぐみ でも…

泰之 キリのいいところまで、やりたいから。

正人 じゃ、二人の分、とっておくね。

三人、去る。

泰之・明と三個、しばし見つめ合い、

招き猫 ……四十年間、この家で大事にされて、幸せでした。猫は三年の恩を三日で忘れ

ると言いますが、私は習志野家から受けた恩を決して忘れはしません。

鳩時計 光陰矢の如し。あつという間の歳月でした。

星座早見盤 心通わせた人たちが去り、それでも地球は回り続け、季節は天高く馬肥ゆる

秋…別れには悪くない季節です。

二人の足手まといにはなりたくありません。

招き猫 畳の上で処分されるのなら本望です。

鳩時計 だから、ジャンケンポイポイで決めるのだけは、ちよつと。

星座早見盤 ……覚悟、できてんだ？

明 ええ。

三個 そっか、それなら良かった…

明、ゴミ袋を手にする。

招き猫 ですから！

明 ん？

招き猫 ……処分される前に一つくらい、望みを聞いてもらってもいいですかね？
 泰之・明 えっ？
 泰之 望み……？

三個、深く頷く。

泰之 それはどういった……いや、ちょっと待ってください、今日一日で叶えられるようなことなんでしょうか？

三個 ……

泰之 できれば、今日中にこの家のことは片付けてしまいたいです。夜には東京に戻らないといけなくて……

鳩時計 明日は月曜ですから。

泰之 ええ、

招き猫 つまり今、猫の手も借りたくらいだと？

泰之 ええ、

星座早見盤 お前たちの望みなんて、流れ星にでも祈っておけと？

泰之 いえ、そこまでは……

鳩時計 時間がない、のよね？

泰之 はい。

明 ……俺、六時には出なきゃいけないんだよ。

泰之 ああ、わかってる。

明 望みを聞いたら捨てられてもいいって言うてんだ……ある意味、気楽じゃん。とつとと聞いて、さっさとケリをつけちまおう。

明、泰之にゴミ袋を握らせる。

星座早見盤

明の言う通りです。

鳩時計

気楽に考えていいんですよ、泰之。

招き猫

明、

明

ん？

招き猫

私たちをそこに入れるのはお前がやりなさい、泰之は優しすぎるから。

明

俺が冷たいヤツみたいじゃねーか！

招き猫

いやいや、明は行動が早いから。思い切りがいいというか。

鳩時計

そうそう、あとさき考えないというか。

星座早見盤

無計画で、いきあたりばったりで、でも口だけはうまくて……

鳩時計

だから今日も女の子、二人も連れて来て。

星座早見盤

どうする気なんですかね、あれ。

招き猫

昔は全然モテてなかったけどな。

鳩時計

だからちよつとモテると舞い上がって、こういうことしちゃうのよ。

星座早見盤

昔から二兎を追いかけているうちに、自分が挟み撃ちにされるタイプで……

明 ほんとに捨てるぞ、今！

三個 ……

明 ……

鳩時計 どうとう私自身の時間が止まるのねえ。

星座早見盤 今夜、私もお星様になるのかあ。

招き猫 ああ、三途の川が私を招いています…

明 なんなんだよ、こいつら…

泰之 望みというのを聞かせてください。

明 兄ちゃん。

泰之 できるかぎり、望みに添うようにします。だから、それが済んだら…言いにくいですが…

鳩時計 無理はしないで。

泰之 無理はしてません、俺ももう三十五です、できることはできるし、できないことはできない。だから、あなた方の望みを聞かせてください。

三個 ……

招き猫 大丈夫？

泰之 はい。

鳩時計 大丈夫？

泰之 はい。

星座早見盤 大丈夫？

招き猫 はい。

鳩時計 明も？

鳩時計・星座早見盤 ……(見つめる)

明 ああ。

招き猫 では僭越ながら、私から望みを申し上げてもよろしいでしょうか？

鳩時計・星座早見盤 もちろん。

泰之 どうぞ。

招き猫 招かれてみたいんです。

泰之・明 ん？

招き猫 一生に一度くらい、誰かに招かれてみたいんです。

泰之・明 ……

鳩時計 次、よろしいですか？

泰之 どうぞ。

鳩時計 一度でいいから、時を忘れて何かに没頭してみたいんです。

泰之・明 ……

星座早見盤 次、よろしいですか？

泰之 どうぞ…

星座早見盤 一度くらい、本物の星空を見てみたいんです。

明 え、そんなの簡単じゃん。

星座早見盤 ……恋人と。

明
 ……
 ……それは、こういうことでしょうか？

泰之、星座早見盤を抱き起し、縁側まで連れて行く。
 向かい合って、星座早見盤の両耳を手で持つと、
 空と星座早見盤とを見比べる振りをしつつ、

泰之 通常はこういう感じですよね。

星座早見盤 はい、私の正しい使い方です。

泰之 それを、こういう感じになりたいと？

星座早見盤の向きを変え、肩を抱いて恋人同士のように寄り添うと、
 そのまま一緒に空を見上げる。

星座早見盤 そうです、傍らには恋人、頭上には満天の秋の星空…

泰之 あ、雨、やみましたね。

押し入れの襖がそつと開き、可愛らしい女の子(その緒1)と、
 冴えない風貌の男(明のへその緒2)が現れ、泰之と明の様子をじつと伺う。
 二人、すぐにまた押し入れに姿を消す。

星座早見盤 まだ曇ってますね。今夜、星が見えるといいのですが。ペガサス座がきれいな季節で
 す。

泰之 ほう。

星座早見盤 星が出るまでに恋ができれば、もう思い残すことは何もありません。

泰之 ……それはちよつとどうですかね。

星座早見盤 え？

泰之 それは本当の恋ではなく、恋に恋しているだけではないでしょうか？

星座早見盤 恋に、恋を？

泰之 おそらく。

星座早見盤 それでもいい…誰かに「好きだ」と言われてみたいんです。

泰之 それは、なかなか難しいことです…

明 不可能だろ！

泰之 明。

明 難しいって言うか、不可能だよ、恋人も、時を忘れるのも！…招くのは簡単か、
 ほらおいで、ニヤンコちゃん…はい、終了！

招き猫 ……雑だな。

明 あ？

三個 ……(顔を見合わせる)

鳩時計 私の時間も止まるのね…

星座早見盤

お星様になるのか……

招き猫

ああ、三途の川が……

明

それはもうわかった！

泰之

……まあ、そう決めつけるな。

明

え？

泰之

難しいかもしれないが、できるだけのこととはしてみよう、三つとも。

明

無理なことは無理だつて！

泰之

そういう世の中のルールに縛られてたら、何にもできないんじゃないのか。

明

……

星座早見盤

では泰之も典子のルールを破って、われわれを持って帰るとするのは……

泰之

(きっぱりと)それは無理です。

泰之、招き猫の前に正座をする。

明

何してんの？

泰之

お前も座れ。

明

え？ (座る)

泰之

簡単そうなのから始めよう……では今から、招きます。

招き猫

ほう……

泰之、目を閉じて深呼吸。

招き猫

どうぞ。

泰之

(ぎこちなく)おいでー。

招き猫

……

招き猫、首を傾げる。

泰之

駄目ですか。

招き猫

今の、どう思いました？

星座早見盤

ちよつと軽いかな。

鳩時計

犬を呼んでるみたいよね。

招き猫

犬を呼ぶみたいに招き猫を招くなんて、意味わからないじゃないですか。

泰之

申し訳ない。

明

なんでもいいたろ、招いてんだから……

鳩時計

(なだめて) まあ、まあ……

星座早見盤

泰之はできる子ですから。

泰之

もう一度、やらせてください。

招き猫

はい。

泰之

(丁寧) ようこそおいでくださいました。

招き猫 それもう、来ちゃってるじゃないですか。

泰之 ああつ、そうか。

招き猫 もう一度。

泰之 (大きく深呼吸して) うちに来ないか？

招き猫 ……惜しい！

泰之 ……駄目か。

明 いいんじゃないの？

鳩時計 私、ちよつとドキッとしたけど。

星座早見盤 敵しいですね、ベテランは。

招き猫 筋は悪くありません、

明 筋？

招き猫 ただ、泰之は招くことをまだ甘く見ています。

泰之 甘く？

招き猫 招くというのは、つねに己との戦いです。招いた客人も、迎え入れるこの家も、ともに幸福にならなければ意味がない。その全責任がこの、私の左手ひとつに掛かっているのです。わかりますか？

泰之 なるほど。

招き猫 今から、実技に入ります。

泰之 実技？

招き猫 誰でもいいですから、あなたが招きづらい人間を一人、ここへ招いてもらなさい。

泰之 ……

招き猫 それができなければ、この私を招くなんて百年早いです。

明 ……招かれないんだよな？

招き猫 招かれています！

泰之 招きづらい人間？

鳩時計・星座早見盤 ……典子？

泰之 いやいやいや、それは…ほんと勘弁して。頼むから。

明 なんだ？

泰之 いま、ケンカしてるんだよ、この家のことで…ただでさえ、ここには来たがらないのに、絶対無理だ。

明 じゃあ、俺が代わりに招くから、携帯貸せよ。

泰之 何て言う気だ？

明 「むかついて電話なんかしたくねーつて兄ちゃんが言うから、俺が電話したんだけど」…

泰之 余計、こじれるだろう！…俺が、かける。

泰之、典子に携帯電話をかける。

泰之 ……もしもし、俺。いや、何つて、何でもないんだけど…お前、いま、何してるの？
もしも…もしも、だけどさ、良かったら…こっち来ないか？ べつに理由はないけ

ど、来たつて悪くはないだろう。俺の実家なんだし……いや誰もそんなこと言っていないだろう、何でそういう風にとるんだ……また、その話か！ もういいじゃないか、そのことは……しつこいな、お前……あつごめん……だから、ごめんつて謝つただろう！ 怒つてないよ！ 怒ってるのはお前だろう！ ……は！？ なに言ってるんだ、お前……ああわかった、もういい、勝手にしろ！（切る）

明・三個
招き猫

失敗、と思つてよろしいですか？

泰之

ここへ来いと伝えたはずなのですが……

招き猫

はい。

泰之

結果としては、俺がうちに帰れないことになりました……

明・三個

………

泰之

ちよつと、トイレ……

泰之、肩を落として出て行く。

気まずい空気。

鳩時計

じゃあ、その件は置いて……私の望みを聞いていただくというのは？

明・招き猫・星座早見盤（口々に） ああ、それいいね……

明

ある意味、一番、簡単かもしれねーしな。

鳩時計

そう、そう。

明

なんかこう、パーツと楽しくやって、「うわー、あつという間に時間が過ぎちまった

なあー」つて、なればいいんだろ？

鳩時計

そうですね、そうです。

明

で、ハツと気づいたら終電もなくなつて、みたいな……ああ、ライブじゃん、それ！

鳩時計

……ライブ？

明

さつき、俺（こ）でちよつとだけ歌つただけけど？

鳩時計

歌？

星座早見盤

もしかして、叫んでいたあれですか？

鳩時計

あれは渋滞情報でしょう？

明

違う違う、あれはこう、精神的な地獄をモチーフにした歌で……まあいいや、もう

一回歌うからさ。それでもう時間なんて、あつという間にブツ飛んで……

鳩時計

ハッポーウ。

明

……ん？

鳩時計

はい。

明

……ハッポー。

鳩時計

はー……（溜息）

明

なんだよ。

鳩時計

もう一回、ハッポーウ。

明

だから、なんなんだつて……

鳩時計

正確に真似して。ハッポーウ。

明 は？。パッポー。

鳩時計 違う、何の音だか、わかってるの？

明 音？

鳩時計 ミ、ドのシャープ……パッポーウ、パッポーウ……

明 ミ？。ド？。パ……パッポー。

鳩時計 (星座早見盤に) ちよつと、やってみて。

星座早見盤 パッポーウ。

鳩時計 こっちのほうが上手いわ。

明 ちよつと待てよ、もう一回……パッポーウ……ほら合ってるだろ？

鳩時計 明、あなたそれ、何時のつもりで鳴いてるの？。パッポーウ。

明 何時？

鳩時計 いい、ただ音をとって鳴くだけなら誰でもできます、大事なのは気持ち。パッポーウ。

鳩時計 ポーウ。

明 心？

鳩時計 あなたの鳴き方では、午前だか午後だか、全然伝わって来ない。パッポーウ。

明 知るか！

鳩時計 またそうやって短気を起こす……昔からのいけないところですよ。できないことがあると、すぐそうやってイライラして、パッポーウ、そして逃げてしまう。

明 ……

鳩時計 中学のサッカー部もそうでした、レギュラーから外された途端、やめてしまつて……パッポーウ、高校の時の最初の、パッポーウ、バンドだつて、パッポーウ、他の子がお前より、パッポーウ、ちよつとでも上達すると、パッポーウ、気に入らなくて、パッポーウ、そりゃあ友達も、パッポーウ、いなくなりますよ。

明 なに言ってるか全然わかんねーけど、むかつく！

鳩時計 やれやれ……

木島永太郎、入つて来る。作業着姿。

永太郎 おう、懐かしいなあ、その時計。まだ現役なんだ。

明 永太郎。

永太郎 ちよつと、四時か。

りつ子と泰之も入つて来る。

二人、見積書に目を落としている。

明 遅かつたじゃん。

永太郎 遅くないよー。朝こ見て、いま見積り持つて来たんだから、褒めてほしいくらいだよ。

りつ子 やっぱりこのくらいは掛かるつて、リフォーム。

明 えっ？

明が見積書を覗き込むと、
背後から招き猫、鳩時計、星座早見盤も覗き込む。

明・三個

・・・高っ。

泰之 ま、このくらいは掛かるよな。

永太郎 それでもだいたいサービスしてるんだよ。直して借りてくれる人がいればいいけどさ、このへんももう年寄りばっかだし、借りるやつなんていないんじゃないかな。この家、全部ぶっ壊して、土地だけにして売っちゃったほうがいいんじゃないの？ 不動産屋、紹介するからさ。

泰之 うーん・・・

りつ子 なんか悪いね、私が引越すことになったから・・・

永太郎 引越しの日、決まったの？

りつ子 来週の土曜。

永太郎 そっか・・・来週の土曜か・・・結構早いなあ・・・（口の中で何かゴニョゴニョ言う）

星座早見盤 永太郎、小学生の時から顔、同じですよ。

鳩時計 同じ。やつと年齢が顔に追いついた。

招き猫 でも今や社長様ですからね、木島工務店の。

星座早見盤 立派になったもんですよ。

鳩時計 あの泣き虫の永太郎がねえ。

明 うるせーな、ごちゃごちゃ！ おんなじ数字ばっか読んじまうだろ！

永太郎 ああつ、ごめん！

明 いや、永太郎に言ったんじゃないよ・・・

りつ子 （明と永太郎に）どうしたの？

泰之 ちよつと考えさせてもらっても、いいかな。

永太郎 もちろん、いつでもいいから。

正人、顔を出して、

正人 姉ちゃん、コーヒーどこ？

りつ子 あー、上の棚。

正人 上？ 右の？

りつ子 いや、そっちじゃなくて・・・行くわ。

りつ子、出て行く。

泰之 ピザあるんだけど、食ってく？

永太郎 いや、すぐ店に戻らないと・・・ほんと懐かしいな、その時計。

泰之 ああ。

永太郎 ここに掛かったやつだろ？

泰之　　そうそう。
 永太郎　　まだ鳩いるの？

永太郎、鳩時計の胸のあたりを覗こうとする。
 泰之、そっと押しとどめて、

泰之　　ちよつとやめといて、そこ。

永太郎　　そう……(招き猫の頭を撫でて) さっき来た時も、こいつ、懐かしいなあって思っ
 たらさ。

泰之　　覚えてた？

永太郎　　もちろん、玄関のだろ？

泰之　　……(星座早見盤を抱えて) これは？

永太郎　　ああ、これ！ おじさんのだろ？ まだとつてあつたんだ……小学生ん時、よくこれ
 借りて、庭でこんな風に星を見たよなあ、ヤスと明とりつ子と……

永太郎、星座早見盤の頬を両手で挟み、恋人のように向かい合う。

泰之　　永太郎……その向きをちよつと変えてくれる？ 反対向きに。

永太郎　　えっ、こういうこと？

星座早見盤の向きを反対にし、寄り添う。

泰之　　そのまま、ついでに……「好きだ」って、言ってみないか？

永太郎・星座早見盤　ええっ!?

星座早見盤　異議あり！

泰之　　駄目か。

永太郎　　駄目つて……

星座早見盤　恋人と言ったら、女の子がいいに決まってるじゃないですか！

明　　お前、男か!?

永太郎　　ええっ、男だけど？

泰之　　……ああ、男、知ってる知ってる。

星座早見盤　恋人と言ったら、ぜつたい女の子でしょう。

明　　女ならどんなのもいいの。

永太郎　　えーっ。

星座早見盤　どんなのつて……

明　　好みとか、あんなのか？

星座早見盤　言うんですかあ？

永太郎　　好みて、わかつてるんじゃないの……なに言わせたいんだよ……

星座早見盤　じつは、奈央さん、好みです。

明　　マジか!?

永太郎

いやまだ何も言っていないよ。

明

(永太郎に気づいて) ……ん？

泰之

(星座早見盤に) そうなんだ…

星座早見盤

いや、お恥ずかしい。

泰之

今、お前に「好きだ」と言ってもらわなければならない。

永太郎

え、ちよつと、そんな…見限らないでよ。

明

見限る？

永太郎

わかった…言うよ…俺、絶対「好きだ」って言うから…りつ子に。

明

！

泰之

…(頷いて) とうとう決心したか。

明

は！？

永太郎

ああ、引越したら、会えなくなるかもしれないもんな。

泰之

長い片思いだったな。

永太郎

ああ…

明

ちよつと待て…永太郎が？りつ子を？

泰之

お前、気づいてなかったのか。昔から、あんなにあからさまだったのに。

永太郎

でも、りつ子は気づいてないけどな…

明

待つてくれ、今、最初から永太郎の話をしてたっけ？

泰之

微妙に違うが、まあ、こういう流れになったから、これはこれでいいんじゃないか。

明

……

永太郎

ヤス、何時までいるの？

泰之

…もしかしたら泊まるかもしれない。

永太郎

えつ、そうなの？ 奥さんは？ 会社は？

明

あ、そのへんあんまり問い詰めないでくれる？

永太郎

そう…じゃあ、またあとで寄ってもいいか？

泰之

今夜なら、ヤケ酒にじっくり付き合えるぞ。

永太郎

…(泣きそう)

泰之

冗談だつて。

永太郎

いじめないでよ…じゃあ、またあとで。

泰之

ああ。

永太郎、出て行くこうとすると、入り口でりつ子に会って、

りつ子

もう帰るの？ ピザ、余ってるけど？

永太郎

……

りつ子

ん？ どした？

永太郎

いや…あとでまた来るわ。

りつ子

そう？ わかった。

永太郎、出て行く。

りつ子 どうする？ 冷めちゃうよ。

明 あ、腹減ったな。食おうぜ、とりあえず。

泰之 そうするか。

りつ子 正人と女の子たち、音楽話に花が咲いている。

明 へえ。

泰之 じゃあ、こっちで食うか。取って来る。

りつ子 明、このへん(ちゃぶ台)、空けといて。

泰之とりつ子、出て行く。

明 ちよつと、一旦、休憩。

招き猫 はい。

明 ここ、空けてくれ。

招き猫・時計 わかりました。

星座早見盤 こっち(縁側)、気持ちいいですよ、風が吹いて。

明 じゃあ……

招き猫と鳩時計を運ぼうとして、どうしたらいいのか、戸惑う明。
鳩時計、両手を差し出し、お姫様抱っこを要求する。

鳩時計 優しく、運んで。

明 ……マジかよ。

明、渋々、鳩時計を抱っこする。

明 重っ！

鳩時計 古いから、湿気が溜まつちやってるのよ。

明 そういうのとは違う気がする……

招き猫 明、私は？

明 お前、自分で歩け！

招き猫 えーっ……まあ明に抱っこされるのも何だしねえ……

招き猫、ブツブツ言いながら自分で歩いて縁側へ。

再び押し入れから、へその緒1・2が顔を出し、明に話しかけそうな素振りを見せるが、
どうしてもできず、二個とも廊下へ走り去る。

明 ……なんか通らなかつた？

三個 いえ……

招き猫 私の口からは何とも……

明

は？

廊下を覗きに行った明、そのまま後ずさりをする。
泰之、廊下から後ろ向きのまま、入って来る。

明

なんだよ……あれ、ピザは？

泰之の向こうから、習志野典子、ゆっくりと入って来る。

典子

久しぶり、明くん。おじやましていいかしら？

明

……典子さん。

泰之

どうして？

典子

泰之が来いって言ったんでしょう？

泰之

………

招き猫

合格です。

三個、拍手。

泰之の視線を追い、典子も三個を見て、

典子

あら、まだいろいろ残っているのね……私も手伝うわ、片付け。

廊下から、りつ子、正人、奈央、めぐみが覗き込む。
再び、遠くで雷鳴。

暗転

【第二場】

明転。

前場ラストの典子が入って来たところ。

典子 ……私も手伝うわ、片付け。

役者の立ち位置は前場ラストとまったく同じだが、
招き猫、鳩時計、星座早見盤は実物になっている。

泰之 どうしたんだ、お前……

典子 どうって、何が？

泰之 来るなら来るって、一言くらい……

典子 言う前に泰之が切ったんじゃない。駅で電話したのに……

泰之 だって、お前が「帰って来るな」って。

典子 そうじゃないわ、「私もいまそっちに向かっているから、今夜は泊ってもいいんじゃないの」って、そう言いたかったのに。

泰之 ええっ？

典子 有休余ってるんだし、たまには実家に泊まってゆっくりしたいだろうな、って思っ
て……明くん、久しぶり。

明 ういっす。

典子 ずいぶん古い鳩時計……

明 ……ああ。

明、鳩時計を縁側に置く。

典子 片付け、私もやるわ。何すればいい？（上着を脱ぐ）

りつ子 典子さん、お茶でも飲んでひと休みして。遠かったでしょう？

典子 お構いなく。すみません、急にお邪魔してしまって。

りつ子 いやいや、ヤスと明の家だから。お腹すいてない？

典子 特急の中で、軽く。

りつ子 そっか、ピザ余ってるんだけど。

正人 あっ、もうないや。

りつ子 えーっ。

明 嘘、ないの！？

りつ子 とっついてって言ったでしょ、ヤスと明の分。

正人 ごめん。

めぐみ 話が弾んじゃって、うっかり……

典子 食べてないの？

泰之 ああ。

明 ひでーな、お前ら！
 奈央 私、何か買って来ます。
 めぐみ あたしも。
 明 頼むよ。
 めぐみ そこにコンビニ、あったよね？
 明 ある、交差点のとな。
 正人 俺が行くよ。
 奈央 平気です。
 正人 道、わかる？
 めぐみ わかるわかる、真っ直ぐでしょ？
 正人 出てすぐ右に曲がったほうが・そこまで行くよ。

正人、奈央とめぐみを連れて出て行く。

典子 あの子たちは？
 明 あー、友達。
 典子 友達なのに、実家にまで来たの？
 りつ子 テキトーなことしていると、痛い目にあうよ。
 明 鈍感女に言われたくありません。
 りつ子 なに、鈍感？
 泰之 じゃあ、続きをやろう。飯が来たら休むとして。
 明 ああ。
 りつ子 ちよつと頑張つてよね、全然進んでない感じ。
 明 そつちこそ、あつたのかよ、へそ。
 りつ子 あつ。
 典子 え？へそ？へその緒のこと？
 明 そうそう。
 典子 今日は、それをもらうのがメインの目的なんでしょ？
 泰之 ああ。
 明 なのに失くしました、この人。
 典子 ええっ。
 りつ子 いや失くしてない、人聞き悪いなあ。どこかに置いて、置いた場所がわからなくなっただけだつてば。
 明 ま、ないなら、ないで、べつにいいんだけど。
 りつ子 そんなこと言うと、おばさん悲しむよ。(典子に)あります、ありますから。
 典子 やつぱりさつさとガラクタは捨てていかないと・・・大事な物もごちやごちやになつてしまうわよね。

典子、落ちているゴミ袋を拾い、三個を見て、

典子 そのの、全部これに入れればいいのかしら？
 泰之 あ、ええと、ちよつと待つて。

典子 なに？

泰之 ……さっきやつたけど、入りきらなかったんだよ、それに。

典子 そう？ 入ると思うんだけど。

泰之 いや、入らなかった。な？

明 あ、ああ。

典子 だったら、細かくすれば入るでしょ。

泰之・明 細かく！？

典子 何かで叩いて、粉々にしちゃえばいいじゃない。ゴミはなるべく小さくして出すのが、マナーでしょ。

泰之・明 ……

りつ子

あ、典子さん、知らないんだっけ？ あれ、おじさんとおばさんの思い出の品なんだよね。だからまあ捨てるにしても、粉々にするのは、ちよつとできないかな。

典子 思い出の品？

泰之 ああ。

典子 じゃあ、捨てないの？

泰之 いや…

典子、三個をしげしげと見つめて、

典子 こんな重い鳩時計、うちの壁じゃ無理よ、薄いから。

泰之 わかつてる。

典子 都内じゃ全然、星、見えないし。

泰之 まあな。

典子 左手つて、人を招くほうよね？ 右手ならお金だから良かったのに。お金を招いて

くれるんなら、喜んで持つて帰るんだけど。

泰之 ……悪かったな、給料安くて。

典子 誰もそんなこと言つてないでしょ。なんで、そういう風に受け取るの、確かに多く

はないけど。

泰之 一言多いんだよ、お前。

典子 だつて多めに言つておかなくちゃ、泰之は何でも平気で聞き流すじゃない。

泰之 いつ俺が聞き流した？

典子 いつでも。ほぼ毎日。昨日の夜だつて…

泰之 あれか、家を買う話か？ だから今はこっちの処分があるから、ちよつと待つてくれつて…

典子 実家もいいけど、いま生活してるこっちの家族のほうが優先じゃないの、普通は。

泰之 だから俺は、今のマンションでいいと思つてるから…

典子 狭いじゃない、あんなに。しかもアルバムだか何だか山のように持つて来て……明くん、半分、持つて行けないの？

泰之

典子。

明

俺の部屋、ほんつとに狭くて汚いから。

りつ子

それにペンキで「地獄アルバム」って、書かれるかもよ。

明

今、馬鹿にしたろ。

典子

……(溜め息)

明

そんなに古い物、嫌いなのか？ 典子さん。

典子

……べつに嫌いって言うわけじゃないんだけど……古い物とか、誰かが使った物って、魂とか気持ちがあるような気がして苦手なのよ。だから今も……(三個を見て) こっちを見ているような気がして仕方ないの……

泰之・明

………

明

とりあえず、あつちに置いてくか。

泰之と明、三個を隣の部屋へ運ぶ。

典子

でも、捨てるんでしよう？

泰之

捨てる捨てる、言うな。

典子

そんなに言っちゃダメでしょ。

りつ子

まあまあ、まあまあ。

典子

……お手洗い、どちらでしたっけ？

りつ子

ああ、こっち。

りつ子、出て行く。典子、ふと足を止め、

典子

泰之、あとで二人で話したいことがあるんだけど……

泰之

わかったわかった、でも今日は勘弁してくれ。

典子

………

典子、出て行く。

それを見計らって、招き猫、鳩時計、星座早見盤、部屋から顔を出す。

招き猫

右手じゃなくて、すみません……

鳩時計

あんなストレートに重いなんて……重厚感があるとか言ってほしいわ。

星座早見盤

東京に星がないのは、私のせいじゃない！

泰之

すみません、言い方がキツイやつで。

鳩時計

細かくって、どのくらい細かくされるのかしら？

星座早見盤

粉々って言ってましたけどね。

招き猫

とんでもない人がやって来たものです。

泰之

あなたが招けて言ったんです！

明

まあまあ、ちょっと落ち着けよ。とにかく典子さん、来たんだからさ。考えようによつては、こいつの望みなんて、もう叶ったようなもんだろ。

泰之　いきなりポジティブだな。

明　もう一回、ちゃちゃっと招いてみるよ、いけるんじゃないね？

泰之　今度はお前がやれよ。

明　俺がやると、雑だって文句言うんだもん、こいつが。

招き猫　私がいけないんですか？

星座早見盤　あの、私の望み、忘れられてませんか？

泰之　忘れてないですよ。

明　お前のは夜になって星が出ないと、どうしようもねーだろ。夜まで待つてろ。

星座早見盤　私が相手にしてもらえないのは、いつだって夜になってから……たまには昼間にだつて、

構つてほしい。

明　キヤバクラのねーちゃんか！

泰之　奈央さん、何とかならないか？

明　要は、奈央に「好きだ」って言わせりゃいいんだろ？　で、星を見りゃいいんだろ？

星座早見盤　完璧です。雑だけど、完璧です。

鳩時計　私のは？

明　だから大人しく俺の歌を聞けつて。三分間、瞬きするのも忘れるから。

鳩時計　そんな音程じゃ三分でも、チラツチラ、チラツチラ、時計を見ちゃうわよ！

明　どういう意味だ！　焼き鳥にするぞ、鳩！

三個　……（ボンボンと）ええ、どうせ私たちなんて燃やすゴミですからね……

明　だー、もう……

泰之　とりあえず、そつちで考えましょう。

泰之、明、三個、隣の部屋へ入つて襖を閉める。

正人、小さいビニール袋を二つ手に持ち、眺めながら居間へ戻つて来る。

正人　これ、絶対そうだよな、違うかな、いや、そうだろ……

りつ子、戻つて来る。

りつ子　どうしたの？

正人　あ、これなんだけどさ……

りつ子　ああっ、へその緒！

正人　やっぱり？

りつ子　どこにあつた？

正人　廊下に着てた、ダンボールの間に。

りつ子　ナイスだよ、正人。たまには役に立つじゃない。ああ良かった……

正人　でもさ、そんなビニールに入ってるんだね。

りつ子　そうなのよ。

正人　箱とかじゃないんだ。うちにあるのは木の箱だったよね？

りつ子　桐の箱でしょ、このくらいの。おじさんとおばさんなら、もうちよつと、ちゃんとし

正人 た入れ物に入れると思うんだけどな……
うん……

典子、トイレから戻って来る。

りつ子 じゃじゃん！へその緒、見つかりました！

典子 えっ！これが……泰之と明くんの？

りつ子 そうそう。

典子 （袋に書いてある字を読んで）ヤスユキ、アキラ……へえー、これ、お義母さんの字？
りつ子 この字は、おじさんかなあ。

りつ子の携帯電話が鳴る。

りつ子 あれ、永太郎だ。何だろ……（出て）もしもし、何？

りつ子、話しながら部屋の隅へ。

正人 失くさないように、そこ（ちゃぶ台）に置いていてください。

典子 こんなだったっけ、へその緒って？

正人 僕も小さい時に、自分と姉のを見ただけなんですよね……

典子 泰之、どこ行ったのかしら？（上着を羽織る）

正人 あれ、どこだろ……寒いですか？

典子 東京より少し肌寒いかな。

正人 埃がすごいんで、そこ開けてるから……閉めましょうか。

りつ子の携帯電話、充電切れの音が鳴る。

正人 どしたの、充電切れ？

りつ子 あんたの携帯貸してくれない？話の途中で切れちゃった。

正人 いいけど……何の用、永太郎さん？

りつ子 よくわかんないんだよね。とりあえず今夜、飲みに来るらしいんだけど。で、何か

ゴニョゴニョ言ってる……で、切れちゃったと言うか、私が切った。

正人 それ……早くかけ直してあげたほうがいいよ。

りつ子 なんて？

正人 なんでも。あれ、どこ置いたっけ……台所かな。

りつ子と正人、出て行く。

典子、戸を閉めようとして縁側へ近づき、何気なくそのまま庭を眺める。
ふと地面を見て、

典子

わっ、アリの巣？ うわ、大きい……えっ、本当に、アリ？

徐々に縁側の端に寄り、身を乗り出して地面を見ているが、不意にバランスを崩す。

典子

きゃっ。

だが咄嗟に庭に飛び降り、見事に着地に成功。
ホッとして、上がろうとした瞬間、脛をしたたかに縁側の端にぶつける。

典子

うぐっ……(声にならない呻き)

その場でしゃがみ込み、痛み悶える。

いつのまにか、ちゃぶ台に、へその緒1とへその緒2が座っている。

へその緒1

ダイジョウブ？

へその緒2

ダイジョウブ？

典子

はい、なんとか……あら？

へその緒1

痛いの？

典子

いえ、あの、少し……

へその緒1

可哀想。

へその緒2

ウン、可哀想。

へその緒1

痛い痛いの……飛んで行け！（2に向けて飛ばす）

へその緒2

痛い痛い痛い！

典子

……

へその緒1・2

……

典子

すみません、こんな格好で……泰之の妻で典子といいます。

へその緒1・2

……

典子

ご親戚の方ですか？

へその緒1・2

……

典子

ご近所の方？

へその緒1、突然、さめざめと泣き出す。

典子

えっ、どうしたんですか？

へその緒1

泰之に……

典子

泰之？

へその緒1

泰之に、謝らなくてはいけないんです、私……

典子

は？

へその緒2も泣き出す。

へその緒2 明、ごめんよう、明あ！

典子 え、何？

へその緒1 ずっと、ずっと泰之を騙っていたんです…

へその緒2 明、ごめんよう、明あ！

泣きじゃくる、へその緒1と2。

典子 ……泰之とは、どういうご関係？

へその緒1 ……

りつ子と正人、戻って来る。

りつ子 じゃ、典子さん、私と玄関のほうを…

へその緒1、耐え切れなくなったように、へその緒2を引っ張ると、
軽やかに庭へ駆け下りる。

典子 あっ！ ちょっと待って！

りつ子・正人 えっ？

そのまま二個、走り去る。

典子 あっ。(りつ子たちに気づく)

りつ子 どうしたの？

典子 今の人たちは…

りつ子 今のつて？

典子 えっ？

正人 誰かいたんですか？

りつ子 どんな人？

典子 ……りつ子さん、あの、泰之つて、地元に…(言葉を呑み込む)

典子、もう一度、へその緒たちが走り去ったほうを確認し、
小走りで玄関へ向かう。

正人 典子さん？

りつ子 どうしたの？

りつ子、正人も追いかけて行く。

泰之、隣の部屋から出て来る。明も顔を出して、

明　なに、庭へ下ろせばいいの？

泰之　そう。(縁側からアリの巣を見て)雨降ったから、いまいちだなあ、まあいいか。

泰之、台所へ。

明、鳩時計(役者)を抱えて出て来る。

明　お前、自分で歩け。

鳩時計　まあまあ、いいじゃないの……

鳩時計を庭に下して、置く。

招き猫、星座早見盤も付いて来て、縁側に座る。

鳩時計　ちよつと、汚れちゃうじゃない。

明　仕方ねーだろ、ここに置けって言うんだから。

泰之、水の入ったヤカンを手に戻って来る。鳩時計に渡して、

泰之　じゃあ、やってみましょう。

鳩時計　本当に、こんなので時間を忘れられるのかしら？

鳩時計計、ヤカンの水をアリの巣に流し始める。

明、招き猫、星座早見盤、覗き込む。

鳩時計　こんな感じ？

泰之　そうです、少しずつ、少しずつ、そうつと、そうつと……

明　……地味！

招き猫　楽しいですか？

鳩時計　よくわからない……

星座早見盤　夢中になれそうですか？

鳩時計　……(首をひねる)

星座早見盤　泰之はこれをいつもやっていたんですか？

泰之　たまに。

鳩時計　一度始めると、三時間くらいはこうやってるの、ずつと。

星座早見盤　三時間。

招き猫　それはすごい。

泰之　あつという間です、そのくらいは。

明　俺は三分も見てられなかったけど。夏は蚊が刺すし、冬は腹が冷えるし。

泰之　今が、ベストシーズンだ。

明 何のだよ！
 鳩時計 私はしばらくこうしてるので、どうぞ他の方。
 泰之 わかりました。
 明 じゃあ、ほら。

明、自分の携帯電話を招き猫に渡す。

招き猫 恐縮です。

泰之 (自分の携帯電話を出して)では、やってみます。

招き猫 さっき、典子さんを呼んだ時を思い出して。

泰之 わかっています。

明 ケンカになつてたけど、いいのか？

招き猫 そのくらの勢いで、招いていただければ本望です。

星座早見盤 泰之は照れ屋ですからね。

招き猫 電話なら上手くいくはずです。

泰之 苦手なだけだな、電話。

明 なに弱気なこと言つてんだ。これで決めるぜつていう気持ちを持ってよ。招く、オア、デッドだよ！

泰之 わかった、これで決める。招く、オア、デッド！

明 よし、行け！

泰之 もしもし、俺だけど。

招き猫 (主婦っぽい口調で)あ、どうもー、習志野です。

泰之 ……習志野？

招き猫 いけませんか……？

明 いやいやいいよ、うちの招き猫なんだから、苗字は習志野でいいんじゃない？

泰之 わかった……もしもし、俺だけど。

招き猫 あ、どうもー、習志野です。

泰之 もし、良ければ、なんだけど……

招き猫 はい？

泰之 良ければ、今から……

招き猫 はい？

泰之 うちへ来ませんか？

明・星座早見盤 よし！

招き猫 あつらあ〜！ いいの、行つても！？ お夕飯の準備、大丈夫？ ダンナさんは？

出張？ あら、じゃちよつとお邪魔しちやおうかしら？ じゃあ、スーパーで特売してた高野豆腐、持つて行くから。いいのよ、うちたくさんあるから……

明 誰だ、そのオカマ！

泰之 あれ、聞いたことある口調だな……

招き猫 すみません！ 何か、いけなかったでしょうか？

明 いけないって言うか、何なんだ、そのキャラは！

招き猫 いえ、あの、弓子はいつもこういう感じで電話してたので……

明 弓子？

泰之 ああ、母さんか……

招き猫 電話というのは、こういう風に話すものだとはかり思っていました。

明 ……

星座早見盤 じつは我々、電話を使ったことがないのです。

明 知ってるよ。

招き猫 いつも目の前に置いてありましたけどね、私には左手の届かない存在でした。

泰之 確かにあの人が、よく長電話してたなあ、玄関で。

明 高野豆腐、思い出した……しょっちゅう出たな、晩飯に。特売で買ったのか。

招き猫 ひとに譲るほど、買い占めてたようです。

泰之 乾物、好きだったから、父さんが。

明 ああ……好きだったなー。

招き猫 いやはや、電話というのは難しいものですね……やはり私なんかには身分不相応の

品でした。まさに猫に小判とはこのこと……(明に返す)

明 それより招き方、どうだったんだよ？

招き猫 物真似に必死で、よく聞いてませんでした。

明 おい！

泰之 自分としては、最高得点を叩き出したつもりですが。

招き猫 申し訳ないですが、もう一度、お願いします。

泰之 えーっ。

鳩時計 泰之。

泰之 はい？

鳩時計 飽きて来ました。

泰之 えーっ。

明 やっぱり、そりゃそうだわ。

泰之 雨が降った後だから、コンディションが良くないな。

明 だから何の！

泰之 もう少しだけ、頑張ってみませんか？

鳩時計 うーん……

明 いやだから、どうやったって、三分で飽きるって。

泰之 そんなことはない、その気持ちに耐えてじつとアリの巣と向かい合っていると、見え

ない壁を突破する瞬間があるんです。そこまでの辛抱なんです。

鳩時計 パッポーウ……(あくび)

明 あくびしてるじゃんか。

泰之 頑張つて。

鳩時計 目の覚めるようなこと、何かない？

泰之 アリを数えてください。

鳩時計 余計、寝っちゃうじゃない。

星座早見盤 あつ、明に歌ってもらおうというのは、どうです？

明 え？

鳩時計 明に？

招き猫 おお、それはいいですね、あれを聞きながら眠るのは至難の技です。

明 褒めてるんだよな、それ。

泰之 そんな、いきなり歌えるものなのか？

明 歌えるのかって・・・そりゃ俺は歌うために生まれて来たから、生きてること自体が歌だけど。

鳩時計 えっ！？(驚愕)

星座早見盤 鳩が豆鉄砲くりました・・・

招き猫 とにかく今は他に方法が思いつきませんし。

鳩時計 そうね。

星座早見盤 では、星空の似合う愛の歌でも一曲、ぜひ。

明 甘ったるいのなんか歌えねーよ、ロックだからな。

鳩時計 じゃあ愛じゃなくて、アリの歌でいいわ。

明 歌えるか！

招き猫 いやいや、明なら歌えますよ。

星座早見盤 ひとつ上のレベルに上がったんですから。

泰之 お前がさっき言ったろう、これが最後だつて言う気持ちでやらないと・・・アリ、オア、デッド！

招き猫・星座早見盤・鳩時計 アリ、オア、デッド！

明 (舌打ち)・・・仕方ねーなあ。

泰之 では明の歌を聞きながら、そのまま水を入れて下さい。ふと気づいたら、三時間は経ってるはずですよ。

鳩時計 未知の世界だわ。

明 インスピレーションのままに歌うぜ、いいか？ ワン、ツー・・・

明、歌い出す。

明 ♪ 黒だと働き者と褒められて、

白だと殺虫剤まみれだよ

所詮、世の中、黒か白なのかい？

おれはグレーになりたい、

おれはグレーになりたいのさ、ベイビー

そうさ、おれはグレーになりたいと願う、ちっぽけな男さ、ベイビー

アイ アム リトルグレイ

お前とともに堕ちて行くのさ、蟻地獄一丁目・・・

歌の途中で、正人、居間に入ってきて来ると、歌に聞き入る。

正人

新曲？

明 うわつ、正人！ いつからいた！？
 正人 途中から。何ていうタイトル？
 明 タイトルとかべつにねーよ……ただ思い浮かぶままに、ちよつと唇に乗せたみただけだから。
 正人 なんてそんなかつこいいの？ ……あ、やっちゃん。
 泰之 典子さん、家の周りをふらふら歩いてるんだけど……散歩かな？
 正人 田舎が珍しいんだろ。
 泰之 そっか。
 正人 そういや、りつ子は何してる？
 泰之 なんか、永太郎さんからちよこちよこ電話が入つてさ。
 明 永太郎？
 泰之 何の電話だ？
 正人 今夜、お酒持ってきて来るって。それから……まあいろいろ話したいんじゃない？ 来週、姉ちゃん引越すから、さ。
 明 ……えつ、お前も知ってるの？
 正人 何が？
 明 永太郎が、りつ子を……
 正人 ああ、やっぱり気づいてた？ そりゃわかるよね。だいたい、姉ちゃんがここに住んだのも、永太郎さんの店が近いからって、バレバレだよな。
 明 えーつ、そうなの！
 泰之 それは初耳だな！
 正人 あつ、気づいてなかったんだ。
 明 なになに、どゆこと？ どゆこと？
 泰之 遠回りしてるなあ、あいつら。
 正人 べつに俺もはつきり聞いてないけどさ。だけど今までの職場、ここからメチャクチャ近いわけでもないんだよ。ま、家賃がタダ同然っていうのはあるかもしれないけど……でも社宅だつてあったのに、わざわざここに住むなんて、ねえ？
 泰之 なるほど、言われてみれば……
 明 そんな深読み、一ミリもしなかった……
 正人 ま、この家が好きっていうのも本当だと思うけど。姉ちゃんの中で、なんかいい思い出になつてみたいだよ、小学生の頃のこととは。
 泰之 住んでもらつて助かったしな。
 招き猫 りつ子は家族同然ですから。
 泰之 家族だつて、(三個が)言ってる。
 正人 へえー。
 星座早見盤 正人も。
 泰之 お前もだつて。
 正人 本当に？ やったあ。
 明 じゃあ、なんで転職して引越すんだよ、りつ子？

正人 何年経っても、永太郎さんから何も無いから、諦めたんじゃない？
 明 うわあ、めんどくせえ！
 泰之 似てるなあ、あの二人。
 正人 ところで……(鳩時計を見て)何してんの？
 泰之 何かに夢中になりたいんだそうだ。だからアリの巣を見てもらってる。
 正人 全然、意味わかんない。
 明 だよな。
 正人 え、まだバンバン話しかけて来てるの？
 泰之 ああ。
 正人 へー、そりゃあ進まないよね、片付け。
 泰之 なんかこう、あつと言う間に時間が過ぎ去るようなことってないかな？
 正人 うーん、俺は音楽かなあ。
 泰之 それはちよつと難しくて……こだわりのあるそうなんだ、音程とかに。
 正人 ふうん、音楽が駄目なら……スポーツ？
 泰之 ほう！
 明 お前、冴えてるな！
 正人 そう？
 泰之 スポーツですよ、スポーツ！
 鳩時計 運動なんて、したことないわ。
 明 そりゃそうだよな。
 泰之 でもこれなら確実に、あつという間に時間が過ぎますよ。
 明 ま、夢中になれるよな、確かに。
 泰之 ありがとう、正人。
 正人 良かった。
 明 あれ、そういや、奈央とめぐみは？
 正人 あつ、まだだ。
 明 迷ってるんじゃないか、あいつら。
 泰之 かもな、このへん、同じような家と畑しかないからな。
 正人 ちよつと見て来るよ。
 明 悪い。

正人、出て行く。

招き猫 そういえば、明は中学時代にサッカーをやっていましたよね？
 明 ああ、でももう全然やってない……あつ。

明、バドミントンのラケットを拾い上げる。

明 (泰之に)中高六年間、やってたじゃん。まだできるんじゃない？
 泰之 いやー、もう全然……

招き猫 副キャプテン。

星座早見盤 そうそう、そうでした。

鳩時計 成績は残せなかったけれど、最後までチームをまとめ上げました。

泰之 部活やった時と比べられたら、辛いなあ。

明 昼休みに会社の屋上でキヤッキヤ言いながらやってんじゃねーの、女の子たちと。

泰之 お前の会社員のイメージはステレオタイプだなあ・・・やってるけど。

明 やつてんのかよ。

泰之 部長と。

明 部長かよ！

泰之、もう一本のラケットを鳩時計に渡す。

鳩時計 できるかしら、私に・・・

泰之 軽い気持ちで・・・小学生だってできますから。こんな感じで・・・

泰之、素振りをする。鳩時計、それを真似する。

星座早見盤 おお。

招き猫 泰之の素振りがまた見られるなんて、思ってませんでした。よく玄関の前でやっていたものです。

泰之 あ、シャトル、そのへんに落ちてないか？

明 ……ねーな。

泰之 捨てたかな。

明 どうする？

泰之 困ったな。何かないかな？

明 羽が付いてて、ポーンツて飛ぶ感じのやつだろ・・・あつ！

泰之 どうした？

明 鳩！ お前、鳩、出せよ！

鳩時計 ええつ。

泰之 何言つてんだ、出せるわけないだろう。

明 冗談だって、マジになるなよー。

鳩時計 仕方ないわね、もう・・・よいしょつと。

鳩時計、胸元から鳩(の顔が書かれたシャトル)を出す。

明 出るのかよ！ しかもシャトルじゃんか！

招き猫・星座早見盤 鳩です。

泰之 それ、打つてもいいんですか？

鳩時計 私のためにこうして頑張ってくれているんだから、私も少しは身を切る思いをしな
い。

泰之 助かります。では始めましょう。勝つとか負けるとかではなく、とにかくラリーを続けることを目指しましょうか。一回一回、打ち返すことに集中すれば、時間の感覚などなくなるはずですよ。

鳩時計 わかりました。

泰之 すべて、アンダーで打つことにしましょう。そのほうが続きますから。

泰之、サーブを打つ。鳩時計、取れない。

泰之 もう一回。

もう一回、サーブを打つ。鳩時計、取れない。

鳩時計 これ難しいわ。ちょっとやってみて。

ラケットを星座早見盤に渡す。

星座早見盤 私だって、やったことないですよ。

泰之、サーブを打つ。星座早見盤、やはり取れない。

星座早見盤 無理無理、交代。

招き猫 私ですか？

招き猫にラケットを渡す。

招き猫、左手でラケットを持ち、素振りをする。

明 あれ、結構上手いぞ、こいつ。

招き猫 六年間、素振りを見ていましたから。

泰之 じゃあ、行きます。

明 気をつけろ、こいつ、左だ……

泰之 わかってる。

泰之、やわらかいサーブを打つと、招き猫、素早くオーバーで打ち返す。

泰之、取れない。

泰之 ちょっと……オーバーで打つのはナシで、アンダーで。

招き猫 ああ、そうでした。

泰之 ラリーを続けるのが、目的ですから。

招き猫 すみません。

明 もう一回。

再度、サーブを打つが、やはり招き猫、オーバーで打ち返す。

泰之 だから！

招き猫 ああ、すみません、すみません！

明 下から打つんだよ、下から！

招き猫 下から上に手を動かしたことがないので抵抗があつて……つい、上から下に。

泰之 なかなかいいスマッシュでした。

鳩時計 やっぱり左手の鍛え方が違うわ。

星座早見盤 四十年、鍛えてますからね。

招き猫 所詮、私なんぞがラケットを持つなんて身分不相応……

明 それはいいから。

泰之 どうするかな……

めぐみ(声) ちやつほー！

奈央(声) 戻りましたー。

明 あつ。

泰之 帰つて来たか。

星座早見盤 奈央さん！

明 わかつてる。

星座早見盤 とうとう、私も真一と弓子のように、ロマンチックな夜を過ごすことができるのですね。

明 親の話はすんな、恥ずかしい。

星座早見盤 とうとう、私も泰之とヨーコちゃんのように、破壊的な夜を……

泰之 もういい、その話は！

奈央とめぐみ、コンビニの袋を二つ持って入って来る。

正人 やっぱり、迷ってたんだつて。

奈央 ごめんなさい、遅くなつて。

めぐみ 待たせてごめんによーん。

星座早見盤 (腰を浮かす)奈央さん！ 奈央さん！

明 (抑えて)わかつてるから、落ち着け！

不意に暗転。

すぐに、明転。二場冒頭と同じく、みな同じ立ち位置のままだが、

招き猫、鳩時計、星座早見盤は実物になっている。

正人 やっぱり、迷ってたんだつて。

奈央 ごめんなさい、遅くなつて。

めぐみ

待たせてごめんによーん。

わかってるから、落ち着け！（星座早見盤を抱え込む）

奈央とめぐみ、コンビニ袋をちやぶ台に置いて、

奈央

曲がるどころがわからなくなっちゃって……目印が何にもないから。

めぐみ

正人くん、来てくれて助かったー。でなきゃ畑の中で遭難してたかも。ほんと、

何にもないね、このへん。

でも、その何もないのが素敵だなんて思った。

……

正人

そう？

明

ただの田舎だよ。

めぐみ

うん、めっちゃナチュラル系？ やっぱ空が広いのがいいよね！ あ、星もきれいな

んじゃない？

まあ、東京よりかは。

奈央

私、星、大好きなんです。

泰之

（星座早見盤に小声で）お、言い流れです。

明

（小声で）だから落ち着け。

めぐみ

じゃあ夜まであの畑にいて、その大好きな星を見て行けばいいじゃん？

奈央

そうしたいのはやまやまですけど、明くんのライブに行くので。めぐみさんこそ、

どうぞ。

めぐみ

何言ってるの、マネージャーがいなくてどうすんの。

奈央

べつにいらなくても誰も困らないし。

めぐみ

は？ いま何て仰いました？

明

まあまあ、ライブは間に合うと思うからさ、お前ら、星、見て行ったら？

奈央・めぐみ

えっ？

奈央

あつ、これって、星座早見盤だよな？

明

そう、そう、そう。

めぐみ

懐かしい！ 昔、使ったなあ、どうやるんだっけ？ えーと……

正人

回すんじゃない？

奈央

こうですよ、こう。

奈央、星座早見盤をグルグル回す。

明、それを途中で止めて、

明

もういい、すげー興奮してるから……

奈央

ん？

泰之

（星座早見盤に）深呼吸しましょう、深呼吸。

めぐみ

どうかしたの？

明

いやいや……あー、星の話なんかしたら、また歌が浮かんで来たなあ。

奈央

えっ、歌？

めぐみ

新曲？ すごい、すごい！

正人

さつきも作ったのに、アリの歌……

明

ああ！ こんな切ない秋の黄昏時には、ディーブなラヴソングの神が降りて来そうな気がする。

奈央

かっこいい！

めぐみ

しっ！

明

あつ、いま降りてきた……(適当な鼻歌を歌って)あー、奈央、ちょっとそこで「好きだ」って言うてみてくれる？

奈央・めぐみ

え？

奈央

私？ 今？

めぐみ

なんで？

明

ラヴソングにリアリティを持たせるためだよ……(鼻歌)早く！ 早くしないと、神が帰っちゃうよ！

めぐみ

早くしなよ。

奈央

わ、わかった。

めぐみ

でも、なんであたしじゃ駄目なの？

明

いいから！ せーの……

奈央

好きだぞー！

泰之、明、星座早見盤を見て、耳を近づける。

正人

(照れて)うわあ、俺、ここにいいのかな？

めぐみ

(正人に)今のどう？ ディープなラヴソングだつて言ってるのにさ、中学生の告白

奈央

かつーの！

めぐみ

めぐみさん、中学生なんてもう、思い出せないくらい前なんじゃないですか？

めぐみ

はあ？

泰之・明

はあ！？

奈央・めぐみ・正人？

正人

どうしたの？

泰之

いや、何でもない。

明

何だよ、それ……

泰之

盲点だったな。

明

(星座早見盤に)だから今のが奈央。そっちは、めぐみだつて……

めぐみ

あたしがどうかしたの？

明

いや……ちよつと、人違い。

奈央・めぐみ

は？

泰之

どうする？

明

仕方ねーな……めぐみ、お前も言うてくれる？ 「好きだ」つて。

めぐみ

あたし？ オッケー！

明 やっぱり、お前じゃないと駄目みたいだから。

めぐみ (感動)明……

奈央 え、なんで？ 私のどこが駄目だったの？

明 えーと……

正人 イメージに合う、いろんなパターンを探ってるんだね？

明 そうそう、そうそう。

めぐみ やっぱり、明の歌を一番理解してるのはあたしだしねー。

泰之 目線、このあたり(星座早見盤)でお願いします。

めぐみ なんで、お兄さんが？

明 いいから、せーの！

めぐみ 好きだよ……明。

正人 (照れて)うわあ、俺もう駄目だ……

泰之と明、星座早見盤に耳を寄せる。すぐに顔を上げて、

明 あのさ、「明」は要らねーんだけど。

めぐみ 照れてるう！

明 そういうんじゃない……

泰之 明なしで、もう一回行きましょう。

めぐみ なんで、お兄さんが？

明 じゃあもう一回、さっきの感じでいいから。

正人 なんでそんな冷静でいられるの？

泰之 目線、このあたり。はい、いい感じ。

明 じゃあ、せーの……

奈央 待つて！ 納得いかない、私のと何が違うって言うの？

明 奈央、今はちよつと……

めぐみ 今、ここはクリエイティブな現場なわけ。わかる？

奈央 たかがマネージャーが、私たちのことに口出ししないで。

めぐみ あんた、ただのファンのくせに調子づいてない？

奈央 そつちこそ……

正人 ちよつと、ちよつと……

明 奈央！ めぐみも！

罵り合う、奈央とめぐみ。

泰之 (星座早見盤に)どうしました？……いや、あなたのせいではないですから。

明 そう、そう。

泰之 明が悪いです。

明 俺？！

泰之 (星座早見盤に)ああ、泣かないでください……そんな自分を責めないで。どうす

るんだ、お前、責任とれ！

明 ああもう、どいつもこいつも面倒くせーな！ いいよ、もう、俺が言う！

星座早見盤を掲げて、

明 お前が好きだあ！！

目の前には正人。

正人 ……えっ？

奈央・めぐみ ……

正人 俺！？

明 いやいやいや…

奈央・めぐみ どういうこと！？

明 違う違う…

正人 えっ、もしかして…さっきの「グレーになりたい」って歌、こういう意味！？

明 違ーう！

めぐみ なになに？

奈央 なに、グレーになりたいって？

正人 ♪ アイ アム リトルグレー…

奈央 え、そんな変な歌、知らない。

めぐみ ちよつと待って、いつも新曲を一番最初に聞くのはあたしでしょ？

奈央 なに言ってるんですか、私ですよ。

正人 いや、思い浮かぶままにちよつと唇に乗せたみただけって…

めぐみ そうそう、

奈央 いつも新曲の時はそう言って…え？

めぐみ なんで正人くんに歌ってるの？

明 いやべつに、正人に歌ったわけじゃ…

正人 俺、明ちゃんのことリスペクトしてるけど、でもそれはそういう感情じゃないから。

明 何言ひ出すんだ、お前。

めぐみ だいたいさー、おかしいと思ったんだよね、あの田舎嫌いの明が実家に帰るなんてさ。

奈央 電車の中でちよつとウキウキしてる感じだったし。

めぐみ してた、ウキウキしてた！ まさか、こういうことだったなんて。

奈央 だから私たちのことも、中途半端だったんだ。

めぐみ はつきりさせようっていう態度、ゼロだし。

奈央 ここがケンカしても、基本、放ったらかしですもんね。

めぐみ そうそう、あつちで話してたとき、正人くんもずつと「明ちゃんが、明ちゃんが」って、そればかりだったじゃん？

奈央 言ってた言ってた、だいたい大学生にもなって、従弟をちゃん付けて、あり得ない

めぐみ んですけど。
 あり得ない、あり得ない。
 奈央 気持ち悪っ。
 正人 あれ、矛先がなんで俺のほうに……？

鳩時計、五回鳴る。(五時)

めぐみ あ、もうこんな時間。
 奈央 帰ります？
 めぐみ 帰りますか。
 明 帰る！？
 めぐみ 悪いけど、明、新しいマネージャー探してくれる？
 明 めぐみ？
 奈央 私もそろそろ違うバンド、追いかけてよくな。
 明 奈央？
 奈央・めぐみ (泰之に)お邪魔しました。
 泰之 あ、ああ。
 明 待てよ、奈央！ めぐみ！ ほら、ちやつほー！

奈央とめぐみ、ちやぶ台のお弁当を二つとも持ち、出て行こうとする。

明 何で持つて行くんだよ！
 泰之 え、俺の分も？
 正人 待つて、なんか俺、誤解されてると思うんだけど……

正人、引き留めようとし、二人からボディブローを打たれる。

正人 あうっ！
 めぐみ (明に)じゃあね、
 奈央・めぐみ (馬鹿にしたように)ちやつほー！
 明 ……

奈央とめぐみ、出て行く。呆然と見送る明。

正人 なんで……こんなことに……(よろけながら縁側へ)
 泰之 ……ついでに、そこから落ちてみないか？
 正人 は？

泰之、正人を後ろから軽く押す。正人、コロンツと落ちる。

正人

ひゃっ！

招き猫・鳩時計・星座早見盤(人の姿)、慌てて出て来ると、
バタバタと実物を舞台袖に隠し、その位置に座る。

正人

何すんだよ、やつちゃん……いたたた……

招き猫

ダイジョウブ？

鳩時計

ダイジョウブ？

星座早見盤

以下、省略。

正人

(振り向いて)……誰!?

泰之

招き猫、鳩時計、星座早見盤。

正人

うわ、すごい！ こういう感じで話をしてたんだ！

泰之

まあね。

正人

正人です。

招き猫

知ってます。

鳩時計

お腹は平気？

正人

かなり効きました……

星座早見盤

私のせいなんです、申し訳ない。

正人

え？

泰之

女の子に好きだと言われるのが、望みだったんだ。だから、俺と明で何とかあの二人を誘導しようと思ったんだけど……

正人

え、明ちゃんも話ができるの？ あ、また明ちゃんって言っちゃった……

鳩時計

いいんですよ、そのままです。

星座早見盤

無邪気なところが、正人のいいところです。

招き猫

明だって、嫌ではないですよね？

明

………

明、しゃがみ込んで、アリの巣に水を流している。

明

♪ おれはグレーになりたいと願う、ちっぽけな男さ、ベイビー……

泰之

時間を忘れると言うより、現実を忘れようとしているな。

星座早見盤

私のせいで……

泰之

いや、自業自得です。

明

………

泰之

二兎を追いかけているうちに、挟み撃ちにされただけです。

明

自分だって、嫁さんにビクビクして行くせに。

泰之

お前はわかんないだろうけどな、夫婦つてのはいろいろあるんだよ。

明

ああそうですか、べつにわかりたくねーよ、そんなこと……

その間、へその緒2、そうつと明に近づき、ペタッとくっつく。

明 ……きやーっ！

泰之 なんだ？

正人 何かくっついてる！

明 何これ、何これ…虫？ 虫！？

鳩時計 あら、自分から出て来た…

星座早見盤 片方だけですわね。

泰之 こいつは何なんですか？

招き猫 ……へその緒です。

泰之・明・正人 へその緒！？

泰之 これが！？

明 何でもいから離れろ！

へその緒2 明、会いたかった。もう離れたくない。このままずっと繋がってしよう。

明 なに言ってるんだ、こいつ。

へその緒2 ああ、どれだけ長い間、臍(ほぞ)を噛む思いをして来たことか。しかし今、オレたちはこうして一つになれた！

明 なってねえー！（投げ飛ばす）

へその緒2 （でも平気）そんなにへソを曲げないでくれ、明。

明 こいつ、何なんだ！

へその緒2 オレ、明に謝らなくてはいけないことがある。

明 は？

へその緒2 ずっと、ずっと、お前を騙っていた。

明 何だ、そりゃ？

泰之 騙す…？

正人 へその緒が…？

明 どういうことだよ？

へその緒2 じつは、オレは…

突然、へその緒1が飛び出して来て、へその緒2を羽交い絞めにする。

正人 また出た！

明 今度は何だよ…うわ、こいつ、可愛い！

へその緒1、へその緒2を引っ張って行くこうとするが、

2は「大丈夫だから本当のことを言おう」などと言いつつ抵抗する。

正人 なんか揉めてる。

明 どうした？

泰之、二個の間に入ると、へその緒1の腕を掴む。

泰之 君は、何なんですか？

へその緒1 ……泰之！

へその緒1、感極まったように泰之に抱きつく。

へその緒1 ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい……(泣く)

明 ちよつと待て、どういふことだよ？

招き猫 泰之の、へその緒ですから。

明 は！？ じゃ、こっちは？

招き猫 明のです。

へその緒2 (笑顔)

明 人生で一番、納得いかねえ！

泰之 そんな泣いてばかりじゃ、よくわからない。

へその緒2 泰之の言う通りだ。本当のことを言おう。腹を割って話すんだ。

へその緒1 ……

典子とりつ子、話しながら入って来る。

りつ子 あり得ないって、ヤスが浮気なんて……

典子 でも……

りつ子 典子さんと結婚できたのが奇跡なんだから。でも一応、聞いてあげよっか？ ねえ、

ヤス……

典子、泰之とへその緒1に気づく。慌ててりつ子を引っ張って部屋の隅へ。

りつ子 なに？ なに？

典子 あの子！ あの子！

りつ子 ……え、どれ？

典子 今、泰之に抱きついてる子！ どの誰？

りつ子 ……誰もいないよ……

典子 えっ？

りつ子 大丈夫？

典子 でも、あそこ……

りつ子 どこか悪いんじゃないの？ 自分ではどう？ 最近ちよつと体調が変だなあとかあるんじゃないの？

典子 ……じつは、私……

りつ子 私の部屋で休んだら？ ね？

へその緒1、二人の気配に気づいて、パツと庭へ走り去る。

泰之 あつ。

泰之、明、正人、見回すが、いない。

りつ子 なんか、温かいものでも淹れるから……

典子 (泰之を見て)……あ、いない……

りつ子 今、布団敷くね。

典子、憔悴した様子で出て行く。

りつ子も行きかけて戻り、

りつ子 ねえ、さつき奈央ちゃんどめぐみちゃん帰ったけど、いいの？ ちょっと、なに探して

んのよ、さつきから……

正人 姉ちゃん。

りつ子 ん？

正人、りつ子の背中をトンつと落とす。

りつ子 きゃつ！

招き猫、鳩時計、星座早見盤、慌ててオタオタし、実物を持って来そうになるが、「いやいいんだ、このままで」などと呟きつつ、元の位置へ戻って座る。

りつ子 いったーい……(振り向いて) 誰！？

招き猫 ダイジョウブ？

鳩時計 以下、省略。

星座早見盤 右に同じ。

正人 招き猫、鳩時計、星座早見盤……すごいだろ？

りつ子 ……どうも。

三個 どうも。

りつ子 へえー！ こういう感じで話してたんだ。

正人 こっちは、明ちゃんのへその緒。

りつ子 あっそう、失くしてごめんねー。

へその緒2 いやいや、オレたちが逃げ回っていたんだ。

りつ子 オレたち？ そういや、もう一個あるはずだよ。

明 どっか逃げてった。

泰之 ま、すぐにまた出て来るだろ。

りつ子 ヤス、典子さん、具合悪いみたいだよ。

正人 えっ、風邪？

泰之 最近ちよつと調子良くないんだよな、家でも。

りつ子 とりあえず温かいお茶でも飲んでもらって、私の部屋で休んでもらおうかなって。

泰之 わかった、頼む。

りつ子 (二個とへその緒に)すぐ戻って来るので、またゆっくり…

三個 ええ。

りつ子 あんたちちよつと来て。布団敷いてくれる？

正人 いいよ。

りつ子と正人、出て行く。

明 おい。

へその緒2 ウン？

明 何なんだよ、本当のことって？

へその緒2 言いたいけど、一緒に言おうって、あいつと約束したんだ。

明 気になるなー。

泰之 いま無理に聞かなくても、どっちにしる家に持って帰るわけだから。

明 持って帰るのか、これ！

泰之 戻ってから、じっくり話をしてもいいんじゃないか？

へその緒2 なるへそ。

泰之 今とにかくこつち(三個)を何とか…

明 こいつも望みを聞いてくれとか言い出すんじゃないか？「一生に一度くら

い、へその緒じゃなくて盲腸になってみたいんですー」とか。

へその緒2 (大笑い)へそで茶が沸く！

明 ほんとムカつくぞ、こいつ！(蹴飛ばす)

招き猫・鳩時計・星座早見盤 ちよつとちよつと、自分のへその緒…

鳩時計 パッポーウ。

泰之 五時半。

明 うわ、もう暗くなってるんじゃない。

星座早見盤 どうとう夜の帳(とばり)が下ります…ですが私に寄り添ってくれる人は、結局、

誰もいません。

泰之 まだ諦めるのは早いです。

招き猫 そうですよ、ほら、雲もすっかり消えました。

鳩時計 星もすぐに出るはずですよ。

明 やべ、時間ないな…どうすんだよ？ 一個も望み、叶えてねーぞ。

泰之 うーん…

明 いろいろやったけど、どれも駄目だったじゃん。もう打つ手がねーよ、なんつにも思

いつかねー。

泰之 ……

三個 ……

明 ……
なんか、疲れたなあ…

泰之 結局、昼飯、食い損ねたしな……

招き猫 すみません、私のせいで。

鳩時計 いえ、私のせいです。

星座早見盤 いえいえ、私の。

へその緒2 そうなんだ、ひどいな。

明 お前が一番、俺を疲れさせてるんだよ！

へその緒2 ええっ。

泰之 俺たちに、何かできることはないんでしょうか……？

三個 ……

星座早見盤 もしできれば、ですが……

泰之 はい、

星座早見盤 もう一度、あの裏山の公園へ連れて行ってもらえませんか。

泰之 裏山の？

星座早見盤 このお二方に、あそこの星空を見せてあげたいのです。

招き猫 私たちですか？

鳩時計 いいんですか？

星座早見盤

私はほんとにたまーに仕事をするくらいでしたが、お二方は休むこともなく、働いてらっしゃいました。居間で時間を刻み続け、玄関でお客を招き続けた……なのに、私だけが外に出たことがあるなんて、なんだか申し訳ないのです。

そんなことはありません、あなたこそ大仕事を成し遂げたんですから。

そうですね、真一と弓子が結ばれたのは、あなたの力があってこそです。

……行くか？

えっ。

三個

すぐそこだし。なんか俺も疲れたから、たまには星でも見てーよ……

泰之

ここからだど、(空が)南側しか見えないしな。あそこなら、ぐるっと見える。

明

さすが、詳しい。

泰之

よく覚えてないけど、二十年も前だし。そういや行っていないなあ、あれ以来。

明

俺も小学校ん時以来かもな。よし、じゃあ、行くか！

へその緒2

おう！

明

お前も来んの！？

星座早見盤

では参りましょう。

鳩時計

ドキドキしちゃうわ、鳩胸が……(招き猫を見て)あら、どうしました？

招き猫

(浮かない顔)いえ……

泰之

なにか不満なことでも？

招き猫

いえ……私なんぞが外に出たら、「あいつ、たかが常滑焼のくせにいい気になってる

明

よ」とか、周りから言われないでしょうか？

招き猫

招き猫を抱えて公園にいたら、誰も話しかけて来ないから。

鳩時計

安心しました。

明

腕時計ではないのに、外へ出られるなんて！（手を差し出す）

明

いつそ、腕時計になつてほしいよ。

鳩時計

ん？

明 悪い、俺もう腰が限界だから・・・頼んだ。

泰之 えっ、俺が？

明 はーい、ほらほら、出かける準備してー。

典子、りつ子、正人、言い争いながら入って来る。

典子 信じられるわけがないでしょ、そんなこと！

正人 でも本当なんです。

典子 ふぎけないで。

正人 ふぎけてないです。

りつ子 だからヤスは浮気なんてしないって・・・

典子 そんな話、まだ浮気のほうが現実的だわ！

明 ちよつと、ちよつと、そこ、ごめん・・・

明、招き猫、星座早見盤、へその緒²が通って行く。

最後に、鳩時計をお姫様抱っこした泰之が、

泰之 あれ、お前、寝てなくていいのか？ ちよつと、出かけて来るから。

通りすぎようとする。

典子 ……ちよつと、待って！！

泰之 なに？

典子 何してんの！ ……さつきの子と違うじゃない！

泰之 ……お前、見えてるのか！？

典子 地元に何人いるの、一体！

泰之 何人？ は？ とにかく、今、立ち止まってるの辛いから。

典子 どこ行くの！

泰之 すぐ戻る。

鳩時計 ちよつと星のきれいな公園まで行って来ます。

典子 泰之！

泰之 だから何？

典子 ……もう、離婚するから！

泰之 はあっ！？

明たち、「なにになに？」と戻って来る。泰之、鳩時計を下して、

泰之 なんだよ、いきなり・・・だいたいお前、いつから見えてたんだ？ 言ってくれればいいのに。

典子 なに、あのモノと話せるとかいう嘘？ ああ、そうやって口裏を合わせてるのね、習志野家で。

りつ子 違う違う……

正人 信じてくれないんだよ、典子さん。

泰之 だつてお前、このへんからドーンって、落っこちなかったか？

典子 ドーン？

泰之 頭が真っ白になったり……

典子 は？

泰之 声が聞こえたり……

典子 声？

へその緒2 ダイジョウブ？

典子 きゃあつ。

へその緒2、典子のお腹に手を当てている。

へその緒2 怒るのは、へそに良くないぞ。

典子 あなた、さっきの……

明 なに触ってたんだ、お前！

明、へその緒を羽交い絞めにする。しかし逆に抱き締められる。

へその緒2 よし、やっぱり俺たち一緒にいよう！ 永遠に離さないぞ！

明 しまった！

典子 なんなの、習志野家の人たちは……やっぱり来なければ良かった！

帰ろうとするのを、泰之、引き留めて、

泰之 典子！

明 あのさ、典子さん、この人、浮気なんてする甲斐性ないから。

典子 あなたが言ったつて、何の説得力もないでしょ？

明 え？

典子 女の子とまともに付き合えない人に何言われたつて、信用できないわ。

明 ちよつと……

泰之 なんだ、その言い方は！

典子 私より明くんを庇うの！？

泰之 謝れ、明に！

典子 その前に、あなたが私に謝りなさいよ！

泰之 なんで！

明 ちよつとちよつと待て、痴話喧嘩はみつともねーつて……

泰之 フラれたやつは黙ってる！

明　　なんだと！
 泰之　夫婦の話だ、お前はどっか行つてろ！
 明　　だったら、お前がどっか行けよ！　だいたい、日頃の行いが良くないから、嫁さんにこんな疑われるんじゃないの？
 泰之　日頃の行いを、お前に言われる筋合いはない！　ひとりじゃ部屋も借りられないやつが！
 明　　なんだと……？
 正人　ちよつと明ちゃん……
 りつ子　ヤスもやめてよ……
 明　　そつちが勝手に保証人になるつて言つて来たんだろーが。
 泰之　俺がいなきや、お前、のたれ死にだぞ。
 明　　誰も頼んでねー。
 泰之　頼まれなくても、お前に何かあったら、全部、俺んどこに来るんだよ。
 明　　反対にお前が何かやらかしたら、俺んどこに来るんだぜ。同じだろ？
 泰之　お前に迷惑なんかかけるか、俺は仕事もしてるんだ。
 明　　会社員ならオールオツケーなのかよ？
 泰之　そうは言わないけど、人間いつ何があるかわかんないんだ、母さんだつてそうだ、父さんだつて……お前だつて、少しぐらいは足元を固めておけ！
 明　　いつ何があるかわかんねーから、だから、今やりたいことやんなきや……あつけなく死んじまうだろ、人間なんか！
 ……
 典子。　　……
 えっ？
 あなたは誤解しています。ほら、何とかしないと、私たちのせいですから……
 一番いけないのは私なんです。楽しみたいばかりに抱つこなんかされて……
 ちよこつと頑張つて、歩けば良かったんですね。
 そのへんの近所くらいだったら、歩く気にもなつただけど。
 初めての外出で裏山は、ハードルが高すぎましたよね。
 そう、そう。
 私のせいですか？
 そういうわけでは……
 あなただつて喜んでいたじゃないですか、常滑焼のくせにつて。
 は？　いま何て？
 怒ることではないわ、だつて本当に有田焼や九谷焼じゃないんだし……
 気にしていることを！　あなたなんか、そんな私よりもつと安いじゃないですか。
 は？　私が？
 確かにこの中では、一番お手頃価格だけど……
 でも私は壊れませんか、滅多に。
 私だつて壊れないわよ、失礼な。
 昔とくらべると、だいぶ音程がずれて来てるように思えますけどね。

招き猫 ああ、言っちゃった。

鳩時計 そりゃあね、あなたたちと違って私は自力で動いてたから、疲れだつて溜まるの！
ひとから勝手にグルグルされるのだって、楽じゃないんだけどな。そちらは楽でいい
よね、座ってるだけで。

招き猫 あんた、四十年、ずっと手を上げてたことあるか？

鳩時計 だったら私なんて四十年間、二十四時間営業よ。

星座早見盤 そりゃあ、どこがガタが来ても仕方ないね。

鳩時計 ガタ？ 私にガタが来てるなら、あなたたちなんてポンコツだわ！

星座早見盤 ポンコツ！？

招き猫 私まで一緒にしないでくれます！？

鳩時計 じゃあ、あなたはガラクタね！

招き猫 私がガラクタなら、あなたたちなんかガラクタの中のガラクタじゃないか！

星座早見盤 ガラクタって言ったやつがガラクタなんだよ！

鳩時計 ガタガタ屁理屈言わないで、ガラクタのくせに。

招き猫 ガラクタにガタガタ言うなって言われて、クラクラするね！

星座早見盤 何だと！ ガラクタにガタガタ言うなって言われてクラクラしてもうクタクタだよ、
こっちは！

鳩時計 何ですって！ ガラクタにガタガタ言うなって言われてクラクラしてもうクタクタ

だからガクガクしちゃうわ、ほんと！

泰之 ちよつとちよつと……

明 待てよ、お前ら……

罵り合う三個、それを止めようとする泰之・明、りつ子、正之、へその緒2。

わけがわからず、オロオロしている典子。

そこへ突然、へその緒1、割って入る。

へその緒1 やめてー！！

全員 ！？

へその緒2 あっ。

へその緒1 やめて……やめてください……！

明 この子……

正人 やつちゃんの、へその緒……

典子・りつ子 えっ？

へその緒1 ケンカはやめてください。皆さんはガラクタなんかではありません。本当のガラク
タは……（へその緒2の腕を取り）私たちなんです。

全員 ええっ！？

へその緒1 ガラクタで、しかも、ニセモノなんです。

全員 ええっ！

へその緒2 腹を割る気になったのか？

へその緒1 ……うん。

りつ子

ニセモノつて……

正人

二人のへその緒じゃない、つていうこと？

泰之・明

……

へその緒1
 そうですね。そんな私たちがわざわざ取りに来てくれた……なのに、このお三方は捨てられてしまうなんて。ホンモノの結婚祝い、ホンモノの新築祝い、ホンモノの馴れ初めの品なのに。

へその緒2

ウン。

へその緒1

だったら代わりに……私たちを処分してください。

三個

えっ……

へその緒2

ウン、背に腹は変えられない。

明

ちよつと待って……

泰之

もう少し、説明してくれないか……？

永太郎(声)

おーい、りつ子、ヤス！ 入るよ……

永太郎、様子を伺いながら入ってくる。

永太郎

おつ、いるじゃない……何やってんの？ 誰も出て来ないから勝手に……

皆、一瞬だけ永太郎を見るが、すぐにへその緒たちのほうへ向き直る。

永太郎

なに、みんな集まって、こんな深刻な顔で……(典子に)ああ、どうも、いらしたんですか。

典子

(素っ気なく会釈)

泰之

ちよつと今、ごめん。

永太郎

えっ、なに、なに？

明

うるせーな、ちよつと黙ってて。

永太郎

正人。

正人

しっ！

永太郎

なにそれ……りつ子、何なの？ りつ子！

りつ子

ああもう面倒くさいな、ちよつとこつち来て……

永太郎

ん？

りつ子

はい、このへん、こつち立って……

りつ子、永太郎を縁側に立たせ、後ろから蹴落とす。

永太郎

うわっ！ いたい、いたい！ 何すんだよう！

全員、永太郎に注目。

永太郎、何も変わらない様子で縁側に上がって来る。

りつ子 あれ、永太郎、何か変わってない？
 永太郎 なに？ 何か変わった？ どこ？ さつきの招き猫とかもまだあるし。

全員、首をひねって、へその緒たちに向き直る。

永太郎 うわ、なにこの疎外感！

永太郎、泰之たちに近寄って、

永太郎 ヤス、何なの、ヤス！

泰之 お前、庭でアリでも見てろ。

永太郎 ええっ、明、明！

明 うっせーなあ……ほんと何も見えてないの？

永太郎 ん？

習志野の人間じゃないしね。

正人 そうだね。

永太郎 なんか、すっこく淋しいんだけど！

明 ほんとに、見えないの？

明、へその緒2を引つ張り、その顔を永太郎にグッと近づける。

明 これも見えない？

永太郎 えっ、なにになに？ ……あーっ！ これ、あれだ！ うわあ、懐かしいなあ！ なに、

明 二人ともこれ、見つけちゃったんだ？ (笑い出す)

泰之 なんだなんだ？

りつ子 どうした？

りつ子 あんた知ってるの、これ？

永太郎 へその緒のニセモノだろ、おじさんが作った……まだ取ってあったんだ！

明 作った？

泰之 どういうことだ？ 何でお前が知ってるんだ？

永太郎 あ、しまった、内緒だった……ま、いいか。二人とももう亡くなったし。小学校、五年か六年の時か？ 休みの日にこんな家で遊んで、トイレ行った時かな、不意におじさんに呼びとめられてさ、これを見せられたんだよ。これと、もう一つ、あったんだけど……

泰之 (へその緒1を押し出して)これか？

永太郎 そうそう、まだあったんだ。おじさんに「永太郎、へその緒見たことあるか？」って聞かれて、「あるよ」って答えたら、「こんな感じだったかな？」って、この二つを見せられたんだよ。

りつ子 なんて？

永太郎 ……失くしたんだって、本物。

泰之・明・りつ子・正人・典子 ええーっ。

永太郎 大掃除か何かで、おじさん、どうもうつかり捨てちゃったみたいだつて。

典子 ええっ。

りつ子 本当に？

正人 姉ちゃんより、ひどい……

明 マジか……ま、やりそうだけだな、あの入。

泰之 怒られたらどうなあ、母さんに。

りつ子 へその緒なんて、最高の思い出の品だもんね。

明 なんかもう土下座してるのが見えるな……

正人 それで、わざわざ作ったの？

永太郎 うん、ヤスと明が本だかテレビだからで、へその緒のを知って、「見せてくれ」って、せついたらしいよ。覚えてないの？

泰之 覚えてないな。

永太郎 それでおじさん、おばさんに責められて、必死になって作ったみたいだよ。

明 全然、知らなかった。なんで黙ってたんだよ？

永太郎 口止め料もらったからさ、ガリガリ君。お前らにバレないように、台所で必死で食つてさ……ああ、このへんのキーンとした感じ、思い出しちゃったな。

りつ子 道理で変だと思っただよな、ビニール袋に入ってたし、ごちやごちやーっしてるとここに押し込まれてたし。

正人 なにできてんの？ 本物だと思ったよ、俺。

りつ子 私も。ねえ？

典子 ええ。

永太郎 聞きたい？ ええとね、確か……ああ、そうそう……(思い出し笑い)

へその緒2 こいつ、本当はマカロニ。

へその緒1 こっちは、切り干し大根。

明 マジかよ！？

永太郎 いやまだ何も言っていないよ……

泰之 好きだったからなあ、乾物。

永太郎 おっ正解！ じつはマカロニと……

りつ子 その話、終わってる。

永太郎 ええっ。

明 俺、切り干し大根に抱き締められたのか……

へその緒1 最後まで嘘をつくことも考えたけど、典子を見て、無理だと思った。

へその緒2 ウン、ホンモノには敵わない。

典子 えっ……

へその緒2 明。

明 あ？

へその緒2 オレ、今からただの切り干し大根に戻るけど……食べたかったら食べていいぞ。死んでも食うか。

へその緒1 あああ！ すっきりした！

へその緒2 ウン！
 へその緒1 本当のこと話したら怒るんじゃないか、って、すっごく、すっごく怖かった。
 へその緒2 だからオレが大丈夫だって言っただろう？ ……案ずるより？
 へその緒1・2 生むが易し！

顔を見合わせ、にっこり笑う。

そして実物を取り出すと、ちゃぶ台にそっと置き、ゆっくりと居間から出て行く。

典子、ちゃぶ台に置かれた実物のへその緒を手に取り、

典子 これ……

鳩時計 すつきりしたのね。

星座早見盤 ええ。

招き猫 もう思い残すことが何もないでしょう。

明 ほんとだ、よく見ると切り干し大根……

泰之 よくまあ、こんなので騙されてたな、俺たち。

明 ま、純粋だったんじゃないか？

永太郎 あれ、何か解決したのかな？ 俺のおかげ？ 俺のおかげ？

りつ子 どうかなあ。

正人 ま、そういうことにしてあげようよ。

永太郎 じゃあもう、飲み会、始めちゃう？

りつ子 飲み会？

永太郎 じつはもう、ビール持って来ちゃったんだ。

りつ子 ちよつと、仕事は？

永太郎 終わり、終わり。

永太郎、廊下からビールの箱を持って来ると、配って回る。

正人 えつ、もう飲むの？

明 手際いいな、こういう時は。

泰之 まだ早くないか？

永太郎 そうか？ でもほら、もう星も出てるし。いい時間だよ。さてさてさて、今日は飲みますか。典子さん、何にします？ 飲めましたっけ？ 車にもいろいろ積んであるんで……

りつ子 なんでそんな気合い入ってるの？

明 りつ子のお別れ会らしいぜ。

りつ子 私の手？

永太郎 いやいやいや、それもあるけど、久しぶりにヤスと明も戻って来たし、美人の奥さんも一緒だし、この家でこの面子で飲めるのも最後かもしれないし……今夜はパーツと盛り上がりたいたいじゃない。じゃあ皆さん、とりあえず乾杯しますか……あつ、そうだ。

永太郎、三個の前にもビールを置く。

泰之

お前……

明 あれ、何で……？

永太郎 いや、こいつらも、お疲れ様と思ってさ。俺にとっては幼馴染みみたいなもんだし。

鳩時計 私たちにとっては、あなたも家族ですよ。

星座早見盤

ええ。

永太郎 ま、最後に一度くらい、ガラクタだつて酔っぱらうていいんじゃないの？

招き猫 ……いただきます。(ビールを手に取る)

鳩時計、星座早見盤も手に取る。

永太郎

そうだ、つまみもあるんだ、つまみも……

正人

なんで見えないんだろ？

招き猫 上の空だからじゃないですか……ひとつのこと頭が一杯で。

永太郎以外、全員、りつ子を見る。

りつ子

えっ、なに？

永太郎

よしよしよし、じゃあ皆さん、とりあえず乾杯しますか。ほい、では僭越ながら、

私、木島永太郎が、乾杯の音頭をとらせていただきます……乾杯！

【第三場】

前場の数時間後。夜。
頭上には秋の星空が広がっている。

ラケットを抱えて歌っている明と正人。
それにレスポンスしている招き猫、鳩時計、星座早見盤。
泰之、典子、りつ子、永太郎は縁側に腰掛けている。

明・正人 ♪ 翼の折れた黒いエンジェルが、地獄の首都高、逆走するぜ！ 逆走！

三個 逆走！

明・正人 ♪ 逆走！

三個 逆走！

明・正人 ♪ 逆走、そして渋滞！

三個 渋滞！

明・正人 ♪ 逆走で渋滞！ 迷惑！ 地獄渋滞、百キロ！

三個 小仏トンネル！

明・正人 ♪ 地獄渋滞、百万キロワット！

三個 綾瀬バス停付近！

明・正人 ♪ 灼熱のテールランプ、天国を燃やせ！ 俺の絶望、ただいま地獄一丁目！

正人 ギター！

明と正人、ギターを弾く振り。三個、笑いながら座り込む。

永太郎 かつこいいなあ、俺にもギター教えてよ。

りつ子 やめな、突き指するよー。

明 どうだ、鳩！ めくるめくように時間がすつ飛んだろ！

鳩時計 あつ、ちょうどいいタイミング。パッポーウ。

永太郎 もう九時半か。

正人 早いなあ。

明 ……く、九時半！？

永太郎 どうした？

明 間に合わねーじゃん、ライブ！

正人 うわあ、そうだ！

泰之 そういや、六時に出るんじゃないかなかったのか？

明 俺が時を忘れてどうする！

正人 バンドメンバー、待つてるんじゃない？

明 いや、今、俺ひとりだから、いいんだけどさ……

正人 え、ひとり！？

りつ子 ひとりなのに、バンドつて言うの？

鳩時計

どうせまたケンカしたんでしょう、短気を起こして。

明

うるせ、ああもう今日は駄目だ、何もかもお前らのせいだからな！

永太郎

ごめん！ えつ、でも何が？

明

もう面倒くせーなあ、お前も！ 突き指させてやる！

永太郎

やめてよー。

正人

あつ、それ、新しい弾き方かも。

りつ子

どれ、どれ？

永太郎

痛いよー、やめてよー。

逃げる永太郎。それを追って、正人、りつ子、出て行く。

鳩時計

明、いじめちゃ駄目ですよ。

明

いじめてねーよ。

招き猫

昔と変わらないな。

星座早見盤

永太郎、社長なのにねえ。

典子、へその緒を掌にのせて眺めている。

泰之

そんなに気に入ったのか、それ。

典子

(笑いながら)だって、可笑しいじゃない、お義父さんとお義母さん。

泰之

そうか？

典子

・・・もう喋ってくれないのかしら？

明

いいよ、喋んなくて。

招き猫

ええ、おそらく。

鳩時計

満足したんでしょう。

星座早見盤

羨ましいことです。

明

満足すると、喋らなくなるのか？

泰之

ああ、そうらしい。だからそのラケットも・・・

明

これ？

泰之

高校の引退試合の後は、もう話しかけて来なくなった。

明

こいつも喋ってたのか！

鳩時計

こちらもね、あそこで満足しないでいたらね・・・

招き猫

今日みたいに、もう一度、泰之に握ってもらえる日も来たのに。

星座早見盤

やっぱり粘らないと駄目だよね、粘らないと。

明

お前らは粘りすぎなんだよ！

典子、へその緒を当然のようにバッグにしまう。

泰之

え？

明

持つて帰るの？

典子

当たり前じゃない。

明

でも、それ、ニセモノ……

典子

ニセモノだって、あんなエピソード聞いたら捨てられるわけじゃないじゃない。思い出は、ホンモノなもの。

泰之・明

……

典子

それに、言葉まで交わした相手を捨てるなんて、人としてできるわけないわ。

星座早見盤

あの……

鳩時計

私たちも……

招き猫

言葉を交わしたりするんですが……

明

図々しいぞ、お前ら。ガツンと言ってやって、典子さん。

典子

……(二個をじつと見る)

泰之

いや、あの、もちろん三つとも俺がちゃんと処分するから、あんまりきついことは言わないでやって……

典子

持つて、帰ります。

泰之・明・三個

え!?

典子

泰之も明くんもおかしいんじゃない? こうやって話までした相手を捨てるなんて。そんなことできないでしょう、普通は。

泰之・明

はあ!?

典子

望みを叶えたら捨てていいとかいう話だけ……人間のエゴだわ、そんなの!

泰之

ちよつと待て、俺はお前が持つて帰って来るなって言うから必死に……

典子

だから古い物つて苦手なのよ。捨てられなくなるから。

泰之

……

典子

ああ、うちの実家みたいにしたくないから、頑張つて来たのにな。

泰之

……そういや、お前の実家、物がいっぱいだったな?

典子

結婚した時、自分の家はああいう風にしないぞつて、自分に誓ったの。でも、無理だったみたい。

明

えつ、ちよつと待つて……じゃあ、俺が今日、必死にやったことは一体……

三個

(口々に)ご苦労様でした。

明

ふざけんな! お前らのせいで俺はマネージャーはなくすわ、ファンは消えるわ、ピザは食えねーわ、ライブはドタキャンだわ、切干大根には抱き締められるわ、なにひとついい思いしてねーんだよ!

三個

(口々に)ご苦労様でした。

明

こうなつたら、意地でもお前らの望みを叶えるからな! そんで土下座して俺に感謝させてやる! それまで首洗つて待つてろ!

三個

……

りつ子、正人、永太郎、戻つて来る。

りつ子

明、なに大きい声出してんの?

正人

また、やつちゃんとケンカ?

明　ちげーよ。

泰之　この三つ、持って帰ることにした。

りつ子・正人・永太郎　ええっ。

泰之　典子が、持って帰ろうって、言ってくれたから。

りつ子　いいの、典子さん？

典子　ええ。

正人　うわ、良かったねー。

りつ子　ほんと、良かった。

永太郎　そっか、それは俺も嬉しいなあ。やっぱり捨てるのはちよっと淋しいなあって思った

んだよ、うん。

りつ子　じゃあ、どうやって持って帰る？

泰之　うーん、そうだなあ……

正人　電車だよな？

泰之　ああ。

明　自分で歩かせりゃいいんじゃないか？

三個　無理、無理、無理。

永太郎

（笑って）面白いなあ、明は……そうだ、俺の店にこのくらいの頑丈なコンテナあるからさ、それに詰めたらいいよ。おじさんお婆さんの形見だし、壊れたら嫌だもんな。知り合いに運送屋いるから、頼んでやるよ。安くて仕事が丁寧な奴だから。

りつ子　うん、それがいいよ、そうしな。

泰之　いいの、その箱、仕事で使うやつじゃないのか？

永太郎　いやいや、もう捨てようと思ってたやつだから。

典子　じゃあ、お願いしていいですか。

永太郎　もちろん、じゃあ、そいつに電話しとくか。明日でいいか？

泰之　ああ。

永太郎、出て行く。

星座早見盤

あ……

鳩時計

本当に？

招き猫　持ち帰って頂けるんですか？

典子　どうぞ、うちに来てください。お義父さんとお義母さんの話、もっと聞かせてほしいんです。素敵な人たちだったんですね。

星座早見盤

ええ、

鳩時計

素敵でした。

招き猫

それは泰之と明をみればわかるでしょう？

典子

……ええ。

招き猫

そして、その子もきつと素敵ですよ。

典子

えっ、どうして……

泰之

子供？

明 子供？

典子 ……たぶん。

泰之 は！？なんでお前、それ、早く言わないんだ？

典子 だから話したかったのに、全然、時間作ってくれなかったじゃない、この家のことばっかりで…いつも「あとで、あとで」って、馬鹿の一つ覚えみたいに…

泰之 だからお前は一言多いよ、そういうことだっただけでわかってたら、俺だって…

三個 まあまあまあ。

りつ子 えーっ、おめでどう！

正人 すごい、すごい！びつくりだよ！

泰之 もしかして…家を買いたいって、そのためか？

典子 (頷く)

泰之 なんだ…それならそうと言ってくれれば…

典子 考えてくれるの？

泰之 そりゃ考えるよ、当たり前だ。

典子 本当？

泰之 嘘ついてどうする。

正人 明ちゃん、おじさんになるんだ。

明 げっ、そういうことか。やべー。

正人 なにがやばいの？

りつ子 おじさんになるのが嫌？

明 なんて言うかさ、俺は動いてないのに、周りだけすごい勢いで動いていく気がして、

頭がクラクラするわ…

りつ子 飲みすぎじゃない？

明、星空を見上げる。皆も見上げる。

星座早見盤 ……ああ、ほら、ペガサス座です。

明 なに？どれ？

星座早見盤 あそこ、星が四つ、四角に並んでいるでしょう？それと、こつちとこつちに斜めに
出てる星、それらを繋いだのがペガサス座です。この季節を代表する星座です。

明 どこがどう、馬なんだよ？

星座早見盤 さかさまになってるんです、ペガサスが。しかも上半身だけなんです。雲から飛び出したところとか、早すぎて下半身が見えないとか、いろいろな説があります。

正人 なんて、さかさまなの？

星座早見盤 まあ…疲れちゃったんじゃないですか。

明 テキトーだな、おい！

星座早見盤 それか、翼が折れちゃったとか。

明 お前、本当に星座早見盤か？

星座早見盤 「あの四つの四角い星、あれが僕には家のように見えるんです」。

明 は？ 家？

星座早見盤 「僕と、弓子さんと、子供が二人……そんな家のように見えるんです」。

明 なんだ、そりゃ。

鳩時計 ああ、真一ね。

星座早見盤 真一が弓子にプロポーズした時の言葉です。

泰之・明 げっ！

明 この世で一番、聞きたくねー！

典子 へえー。

正人 うわあ、そうなんだー。

りつ子 いいなー、ロマンチックー。

泰之 お前のセンスのなさは血筋だったんだな。

明 あんたのプロポーズを典子さんに聞いてもいい？

典子 そうか、血筋だったんだ。

泰之 おい。

星座早見盤 だから私にはもう、あの星座は家にしか見えないんです。真一、弓子、泰之、明……その四つの星の周りに、りつ子、正人、永太郎もいて、こちらには典子が……そして、現れないかもしれませんが、明のお嫁さんも現れてください！（祈る）

明 それこそ、招いてもらったらどうだ？

泰之 そうだ、お前、招けよ、全力で！

明 おいでおいで、お嫁ちゃん……はい、終了。

招き猫 雑だな、おい！

明 恋の負け組同士、肩を寄せ合いましょう。

星座早見盤 お前と一緒にすんな。

明 確かに、一度に二人からフラれるなんて、明にしかできないわ。

明 おい。

招き猫 まさに、心の折れたエンジェル。

明 翼の折れた、だよ！

正人 あっ。

三個人 ん？

正人 思いついちゃった……♪ 翼の折れた白い。ペガスが……

明 おっ。

正人 いけそうじゃない？

明 悪くねーな。♪ 翼の折れた白い。ペガスが……

正人 いい感じ、いい感じ。

明 ♪ 夜空の首都高……

正人 首都高、そんなに好き？

明 じゃあ、どういう道だよ？

正人 だって夜空にある道でしょ？ だから、えーと……

典子 天の川。

正人 イエス！
 明 よし、じゃ、♪ 夜空のミルキーウェイ……
 正人 いいね。
 明 ♪ 逆走……
 正人 しないで！ 落っこっちゃう。
 明 ♪ 爆走……
 正人 もっとこう、駆けのぼっていく感じのフレーズ、ない？
 明 駆けのぼる、空を……あつ！ 昇天！
 泰之 死んだぞ、pegasus。
 正人 それいい！ 最高！
 明 な！
 泰之 正人のセンスも残念だな。
 りつ子 血は争えないわー。
 正人 ちよつと通して歌ってみようよ。
 明 夜だし、シックでメロウな感じでいくか？
 正人 いいね、いいね。
 明 ワン、ツー、せーの……
 明・正人 ♪ 翼の折れた白いpegasusが、夜空のミルキーウェイ、昇天するぜ
 明 ♪ 昇天
 正人 昇天
 明 ♪ 昇天
 正人 昇天、そして成仏
 明 ♪ 昇天して成仏、大往生……
 泰之 何の歌なんだ、それは。

いつのまにか戻っていた永太郎、唐突に、

永太郎 りつ子！ 好きだ！！
 全員 うわあ！！
 りつ子 なに、あんた……は！？
 永太郎 明の歌を聞いてたら、いま言わないと、人間いつ死ぬかわからないなって、追い詰められた気持ちになつてきちゃったんだ……
 りつ子 なんなの、いきなり！
 永太郎 いや、いきなりじゃない、いきなりじゃないんだよ……(泣く)
 泰之 泣くな。
 明 まだフラれてねーつて。
 永太郎 なんか、感動しちゃつて。
 明 いや、普通、言われたほうが感動するんじゃないの？

全員、りつ子を見る。

りつ子 やだ、なに、見ないでよ……あんたも何なのよ、変なこと言って泣き出して……

永太郎 ごめーん……(泣いている)

りつ子 やめて、私がいじめてるみたいじゃない、ちょっと、こつち来て、こつち……

永太郎 行く、そつち行くうー……

りつ子、永太郎を引っ張って、庭から出て行く。

泰之 どうなることやら。

典子 へえ、そういうことなの？

正人 お騒がせして、すみません。

明 おじさんとおばさん、喜ぶんじゃないの？

正人 そうだね、一応、社長夫人だし。

泰之 明。

明 ん？

泰之 明日、高志おじさんに挨拶に行こうと思う。

明 なんで兄ちゃんが！

泰之 この家は売ろう。

明 ……

泰之 一応、おじさんにも一言、言つといたほうがいいと思うんだ。

明 ……ああ。

正人 売っちゃうの？

典子 そんな急がなくても……

明 兄ちゃんがそう思うんなら、それでいいよ。家買うつてんなら、頭金だっているだろ

うし？

泰之 半分はお前のものだ。

明 どうせ、たいして高く売れねーよ。

泰之 だろうな。

明 ……父さんと母さん、何て言うかなあ？

泰之 ……

招き猫 「こを売って、今度はお前の家を作りなさい」……

星座早見盤 「星の見える縁側を作って」……

鳩時計 「できたら、アリの巣がある小さな庭もあつたらいいわね」……

招き猫 そんなことを仰るんじゃないでしょうか。

泰之・明 ……

全員、星空を見上げ、黙り込む。

明 ……そうだ、公園行こうぜ。

泰之 えっ？

正人 公園？

明 さつき行こうとしてたんだよ。ここでこんだけ見えるんなら、あそこならもつと見えるんじゃない？

泰之 ああ。

典子 え、どこ？

泰之 裏山の天辺にあるんだよ、公園が。

正人 楽しそう、夜の公園。

明 お前らも行きたいんだろ、行こうぜ。

招き猫 今からですか？

鳩時計 いいんですか？

泰之 せつかくだから、行きましょう。

星座早見盤 典子と行けば、嫌な思い出を塗り替えられますしね。

泰之 またそれを…

典子 え、なに？ 思い出って？

泰之 違う違う違う違う！

典子 まだ何も言っていないけど？

正人 なに動揺してるの？

泰之 してないって。昔のことだから、昔のこと。

典子 ……やっぱり、地元にいたのね！

泰之 高校ん時の話だよ。もうやめてくれ、この話は。

正人 嫌がるところが怪しくない？

典子 どんな彼女だったの？

泰之 よし、じゃあ行こうか！ あったかい格好したほうがいいな、上着、上着…

典子 何でごまかすのよ、ちよつと、泰之…

逃げるように泰之、出て行く。典子もあとを追う。

明 じゃ、野外ライヴといきますか。

正人 いいね。

明 ほらほら、お前らも出かける準備！

鳩時計 はいはい。

星座早見盤 わかっています。

招き猫 もう準備はできています。

明 そっか、じゃ、出発！

正人 出発！

明と正人、鼻歌を歌いながら出て行く。

招き猫、鳩時計、星座早見盤、そのまま居間に残る。

鳩時計 ……持つて帰るそうです、私たちを。

星座早見盤 そうなると思っていました、あの子たちなら。

招き猫 ええ、本当に。

鳩時計 もう少し、簡単な望みにすれば良かったかしら。

星座早見盤 まさか、こんなに手間取るとはねえ。

招き猫 ま、昔から不器用な子でした。泰之も明も。

鳩時計 心残りなく捨ててもらおうのも、ほんと大変。

星座早見盤 ああでも、ひとつだけ叶えられましたね。

招き猫 ええ……招いてもらえました。

鳩時計 三つまとめてください。

招き猫 でも二人とも気づいていませんね。

星座早見盤 おそらく。

鳩時計 明なんて、「首洗って待つてろ」ですって。

招き猫 待つていられたらいいのですが……どうやら、あのペガサス座が、私たちを招いているようです。

鳩時計 (消え入るように)。ハッポーウ……

星座早見盤 私が星になるのか、星が私になるのか……こんな気持ちは初めてです。

玄関から明と正人の歌が聞こえてくる。

明・正人 ♪ 翼の折れた白いペガサスが、夜空のミルキーウェイ、昇天するぜ、昇天……

泰之と典子の笑い声も重なる。

鳩時計 ……あの子たちは、大丈夫。

星座早見盤 大丈夫。

招き猫 大丈夫。

招き猫、鳩時計、星座早見盤、顔を見合わせて笑うと、

ちやぶ台にゆつくりと乗り、最初に現れた時と同じ位置、格好になる。

星空を見上げると、ペガサス座を深く吸い込むようにして、静かに目を閉じる。

暗転

【第四場】

翌朝。よく晴れた日。

ちゃぶ台の上に実物の招き猫、鳩時計、星座早見盤。

その周りに、泰之、明、りつ子、正人、典子、永太郎が座っている。
明、三個を突っついている。

明 ……何にも言わねえ。

永太郎 そうだったんだ…俺も話したかったなあ。

泰之 こっちは話しかけてたけどな。

永太郎 そうなの？

泰之 昨日は上の空だったろ、お前が。

永太郎 ……悪いことしたなあ。

泰之 永太郎も家族みたいなものだから、つて言ってたよ。

永太郎 本当？

明 ……また泣いてるよ、このおっさん。

りつ子 運送屋さん、何時だったけ？

永太郎 あ、そうだった。

りつ子 コンテナは？

永太郎 玄関。

正人 取つて来る。

永太郎 ちよつと重いよ。

正人 平気。

正人、出て行く。

永太郎 じゃあ、また不動産屋も紹介するから。

泰之 ありがとう、助かる。

永太郎 今度、いつ来る？

泰之 そうだなあ。

永太郎 明はいつでもヒマだろ？

明 そんなことねーよ。…でも、ま、テキトーに来るよ。

正人(声) 本当だ、けつこう重いね、これ…

正人、男(コンテナ)を抱えて入って来る。

永太郎とりつ子だけ、啞然とする。

正人、永太郎の前にコンテナを下ろす。

永太郎・りつ子 誰!?

正人 ん?

永太郎　えつ、この人、どなた…
りつ子　（ハツとして）　まさか！
泰之・明・典子　ん？
コンテナ　噂を小耳に挟んだのですが、この仕事が終わったら、私は処分されるとか…
永太郎・りつ子　……
コンテナ　その前に一つくらい、望みを聞いてもらってもいいですかね？
永太郎・りつ子　……
正人　どうしたの？
りつ子　望みを聞いてほしいって…
泰之・明　あつ、そう！
りつ子　つて、なんで、私と永太郎だけ？
典子　家族、つてことなんじゃない？
りつ子　ちよつとやめてよー。
永太郎　…わかった、君にはさんざん働いてもらったしね、何でも言ってくれ。
泰之　おつ。
明　かつけー。
正人　さすが社長。
コンテナ　ありがとうございます。
永太郎　…ほら、私つて、四角くて、頑丈じゃないですか？
コンテナ　うん、
永太郎　だから一生に一度くらい…やわらかくなつてみたいんです。
永太郎　ん？
コンテナ　やわらかく、なつてみたいんです。
永太郎・りつ子　……
泰之　…何を言われたか知らないが、
明　時間が掛かりそうだな。
正人　だね。
典子　ま、ゆつくり待ちましようか。
明　そうだ、ピザ頼もうぜ。
正人　いいね。（メニューを持って来る）
明　今日は絶対、食うぞ。
泰之　昨日のリベンジするか。

永太郎とりつ子、コンテナと話し合い始める。

泰之、明、典子、正人、ピザのメニューを覗き込む。

それを見守るかにように、ちゃぶ台の招き猫、鳩時計、星座早見盤、
晩秋の陽射しを浴びている。

【終】

【初演記録】 ※本作品は、8割世界・第十七回公演のために書き下ろしたものです。

『ガラクタとペガス』

8割世界 その⑩〜8割世界10周年後夜祭公演

二〇一二年十一月二十八日〜十二月九日 八幡山ワーサルシアター

作 石原美か子 / 演出 鈴木雄太 / 舞台監督 松本翠 / 美術 村上薫

照明 千田実(CHIDA OFFICE) / 音響 井上直裕(atSound) / 衣装 小泉美都

宣伝美術 松浦鈴音 / 演出助手 金子瑞穂 / 制作 8割世界 RealHeaven

出演

佐倉一芯(習志野泰之) / 白川哲次(習志野明) / 日高ゆい(習志野りつ子)

中村匡亮(習志野正人) / 木原敦子(習志野典子) / 石田依巳架(立原奈央)

橋未佐子(岬めぐみ) / 小林肇(木島永太郎) / 亀山浩史(招き猫) / 原裕香(鳩時計)

小早島モル(星座早見盤) / 井上千裕(その緒1) / 斎藤晴久(その緒2)

鈴木雄太(コンテナ)

【上演許可について】

本作品の著作権(上演権・映像化権などを含む)は石原美か子に帰属し、無断上演は禁じます。上演を希望する場合は、

・作品名 ・団体名 ・代表者名 ・団体または代表者の住所
 ・上演日 ・ステージ数 ・会場名および座席数 ・チケット料金
 を記載の上、メールにてお問い合わせ下さい。折り返し、ご連絡いたします。

脚本使用料

・有料公演 公演総予算の5パーセント(その金額が5千円以下の場合は一律5千円)

※公演総予算 \parallel チケット料金 \times 会場座席数 \times 総ステージ数

・無料公演 5千円(高校演劇大会、カンパ制公演などを含む)

連絡先 office (アット) ishiharamikako.com ※(アット)を@に直して送信して下さい。

石原美か子公式サイト <http://www.ishiharamikako.com/>